

2018-2019年度インド鉄道省・高速鉄道公社  
職員研修運営管理業務  
研修実施報告書  
(第六バッチ)

平成 31 年 2 月  
(2019 年)

独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
日本コンサルタント株式会社  
一般財団法人日本国際協力センター





## 目 次

1.	コース概要 .....	1
	(1) コース名 .....	1
	(2) 研修期間 .....	1
	(3) 研修員人数 29名（第一グループ：13名、第二グループ：16名） .....	1
2.	研修日程 .....	2
3.	研修コースに関する所見 .....	7
	(1) 講義 .....	7
	(2) 見学 .....	10
	(3) 意見交換会 .....	17
	(4) 報告会 .....	18
	(5) その他 .....	19
4.	研修成果の活用 .....	20
	(1) 研修で得られた成果について .....	20
	(2) 成果の活用方法について .....	21

### 【添付資料】

- 添付資料 1 研修員リスト
- 添付資料 2 研修風景（写真）
- 添付資料 3 クエスチョネア集計結果
- 添付資料 4 研修教材の著作権処理にかかる報告
- 添付資料 5 報告会プレゼンテーション（6チーム）



## 1. コース概要

### (1) コース名

(和文) インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修 (第六バッチ)

(英文) Training Program for Ministry of Railways (MOR) and  
National High Speed Rail Corporation Limited (NHSRCL) Officials  
(The 6th Batch)

### (2) 研修期間

全体受入期間:平成 31 年 1 月 14 日 (月) ~平成 31 年 1 月 26 日 (土) (13 日間)

技術研修期間:平成 31 年 1 月 14 日 (月) ~平成 31 年 1 月 25 日 (金) (12 日間)

### (3) 研修員人数 29 名 (第一グループ : 13 名、第二グループ : 16 名)

## 2. 研修日程

日付	時間	プログラム	担当機関・講師名	場所	宿泊			
1/14	月	1:25 - 12:45	来日(ニューデリー→成田/NH828)		成田空港 第1ターミナル	東京		
			バス移動(成田空港→JICA東京)・チェックイン					
		17:00 - 18:00	JICEオリエンテーション	一般財団法人日本国際協力センター(JICE)	JICA東京 SR411			
1/15	火	9:00 - 9:20	【開講式】	国土交通省(MLIT)/ 独立行政法人国際協力機構(JICA)	JICA東京 別館ABC	東京		
		9:30 - 12:30	JICプログラムオリエンテーション 【講義】新幹線の特徴、高速鉄道の発展の歴史と特徴	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 取締役 東 充男氏				
		13:40 - 15:40	【講義】鉄道マンに期待すること	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 顧問 渡邊 榮美男氏				
		15:50 - 16:20	【講義】インドにおけるJICAの取組	独立行政法人国際協力機構(JICA) 南アジア部南アジア第一課(インド・ブータン)兼イン ド高速鉄道室 調査役 入江 賢氏				
		16:30 - 17:30	【講義】新幹線整備に関する諸制度など	国土交通省(MLIT) 鉄道局国際鉄道技術管理室 課長補佐 有田 祐介氏				
		18:00 - 19:00	ウェルカム・パーティー	日本コンサルタンツ株式会社(JIC)			JICA東京 SR411	
1/16	水	9:00 - 11:00	【講義】日本の新幹線システム	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 技術顧問 松本 壽夫氏	JICA東京 SR411	東京		
		11:15 - 12:30	【講義】高速鉄道における交通結節点の整備	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 取締役 東 充男氏				
		グループ1_土木グループ						
				電車移動<JICA東京→上野駅>				
		15:00 - 17:00	【視察】高速鉄道・在来線連結駅:上野駅	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 上野駅 内勤総括助役 新井山 幸宏氏	上野駅			
				電車移動<上野駅→JICA東京>				
		グループ2_車両/事務/電力/信通グループ						
				電車移動<JICA東京→大宮駅>				
		14:30 - 16:30	【視察】高速鉄道・在来線連結駅:大宮駅	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 大宮駅 内勤総括助役 大島 和幸氏	大宮駅			
				電車移動<大宮駅→JICA東京>				
1/17	木		バス移動<JICA東京→東京駅>			東京		
		7:44 - 9:11	新幹線移動 <東京→新白河/やまびこ205号>					
			バス移動<新白河駅→JR東日本総合研修センター>					
		9:50 - 14:10	【視察】JR東日本総合研修センター	株式会社JR東日本パーソナルサービス(JEPS) 総合研修センター事業本部 本部長 小向井 秀治氏	JR東日本総合研修 センター			
		14:25 - 16:55	【講義】新幹線の安全マネジメント	株式会社JR東日本パーソナルサービス(JEPS) 総合研修センター事業本部 副本部長 星野 堪児氏				
				バス移動<JR東日本総合研修センター→新白河駅>				
		17:47 - 19:16	新幹線移動<新白河→東京/なすの280号>					
		バス移動<東京駅→JICA東京>						

1/18	金			バス移動<JICA東京→JR東日本本社>			東京		
		10:00	-	11:30	【講義】日本の設備メンテナンスについて	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 設備部 課長 小田 和美氏		JR東日本本社 会議室 14階	
		土木グループ							
					バス移動<JR東日本本社→鉄建建設 成田研修センター>				
		14:30	-	16:30	【視察】鉄建建設 成田研修センター	鉄建建設株式会社 成田研修センター 所長 鈴木 武臣氏 課長 高橋 隆氏 課長 南本 哲彦氏		鉄建建設 成田研修 センター	
					バス移動<鉄建建設 成田研修センター→JICA東京>				
		電力/信通/車両グループ							
					バス移動<JR東日本本社→京三製作所(座間)>				
		14:30	-	17:00	【視察】京三製作所(座間)	株式会社京三製作所 課長補佐 滝沢 雄一氏 課長 関 真司氏 信号事業部第3技術部 課長 白鳥 桂太氏		京三製作所(座間)	
					バス移動<京三製作所(座間)→JICA東京>				
事務グループ									
			徒歩・電車移動<JR東日本本社→新宿駅→東京駅>						
14:00	-	16:00	【視察】東京駅(お客様視点)	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 取締役 塩田 浩二氏	東京駅				
			電車移動<東京駅→JICA東京>						
1/19	土			Free (self-study)			東京		
1/20	日			Free (self-study)			東京		
1/21	月	グループ1_土木グループ							
					バス移動<JICA東京→新幹線運行本部>			長崎	
		10:00	-	12:00	【視察】新幹線総合指令	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 新幹線運行本部 副課長 高橋 克典氏	新幹線運行本部		
					バス移動<新幹線運行本部→羽田空港>				
		16:20	-	18:20	空路移動<羽田→長崎/ANA667>				
					バス移動<長崎空港→ホテル>・チェックイン				
		グループ2_車両/事務/電力/信通グループ							
					バス移動<JICA東京→鉄道博物館(大宮)>				東京
		10:00	-	12:00	【視察】鉄道博物館(大宮)	鉄道博物館 館長 宮城 利久氏	鉄道博物館(大宮)		
					バス移動<鉄道博物館(大宮)→新幹線運行本部>				
13:30	-	15:30	【視察】新幹線総合指令	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 新幹線運行本部 副課長 高橋 克典氏	新幹線運行本部				
			バス移動<新幹線運行本部→JICA東京>						



グループ1_土木グループ					
			チェックアウト・バス移動<ホテル→新幹線工事現場(佐賀・長崎)>		
10:30	-	15:30	【視察】新幹線工事現場(佐賀・長崎)	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 (JRTT) 国際部 国際支援課 課長 弘中 知之 氏 武雄鉄道建設所 所長 徳富 恭彦氏 武雄鉄道軌道建設所 所長 板屋 良人氏 九州新幹線建設局 軌道課長 大野 哲男氏	新幹線工事現場 (佐賀・長崎)
			バス移動<新幹線工事現場(佐賀・長崎)→長崎空港>		
19:20	-	20:55	空路移動<長崎→羽田/ANA670>		
			バス移動<羽田空港→JICA東京>		
グループ2_車両/事務グループ					
			バス移動<JICA東京→東京駅>		
7:50	-	12:10	新幹線移動<東京→徳山/のぞみ13号>		
			バス移動<徳山駅→日立製作所 笠戸事業所>		
13:00	-	16:00	【視察】日立製作所 笠戸事業所	株式会社日立製作所 笠戸事業所長 川畑 淳一氏 笠戸交通システム統括本部 車両システム設計本部長 水口 信章氏 笠戸事業所チーフエキスパート 江川 建一氏	日立製作所 笠戸事 業所
			バス移動<日立製作所 笠戸事業所→徳山駅>		
16:54	-	21:13	新幹線移動<徳山→東京/のぞみ48号>		
			バス移動<東京駅→JICA東京>		
電力/信通グループ					
			バス移動<JICA東京→新大宮変電所>		
9:30	-	10:30	【視察】新大宮変電所	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 国際事業本部 副課長 森田 洋介氏	新大宮変電所
			バス移動<新大宮変電所→大宮信号通信技術 センター>		
11:00	-	12:00	【視察】大宮信号通信技術 センター	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 国際事業本部 主席 小山 智之氏	大宮信号通信技術 センター
			バス移動<大宮信号通信技術 センター→日本電設工業中央学園>		
14:30	-	17:00	【視察】日本電設工業 中央学園	日本電設工業株式会社 中央学園 部長 矢部 昌幸氏	日本電設工業 中央 学園
			バス移動<日本電設工業中央学園→JICA東京>		

1/22 火

東京

土木グループ					
			バス移動<JICA東京→ベルサール八重洲>		
9:00	-	10:30	【講義】日本のトンネル技術	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 技術顧問 遠藤 健二氏	ベルサール八重洲 3F Room5
			徒歩移動<ベルサール八重洲→東京駅>		
11:20	-	12:52	新幹線移動<東京→仙台/こまち・はやぶさ19号>		
			バス移動<仙台駅→仙台新幹線保線技術センター>		
14:00	-	16:00	【視察】仙台新幹線保線技術センター	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 仙台新幹線保線技術センター 所長 佐藤 芳弘氏	仙台新幹線保線技 術センター
			バス移動<仙台新幹線保線技術センター→ホテル>・チェックイン		
事務グループ					
			バス移動<JICA東京→JIC本社>		
10:20	-	11:50	【講義】コアスタッフ研修の概要	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 顧問 渡邊 榮美男氏	JIC本社 会議室
13:00	-	14:30	【講義】サービス改善	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 取締役 東 充男氏	
14:40	-	16:10	【講義】JR東日本の人事制度・福利厚生	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 顧問 渡邊 榮美男氏	
			徒歩移動<JIC本社→東京駅>		
16:56	-	18:29	新幹線移動<東京→仙台/はやぶさ105号>		
			徒歩移動<仙台駅→ホテル>・チェックイン		
信通/車両グループ					
			バス移動<JICA東京→東京駅>		
9:32	-	11:05	新幹線移動<東京→長野/はくたか557号>		
12:08	-	14:00	【視察】East-i添乗<長野→東京>	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 国際事業本部 主席 末永 正行氏	East-i
14:20	-	15:50	【視察】東京駅	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 技術顧問 大信田 尚樹氏	東京駅
16:20	-	17:52	新幹線移動<東京→仙台/はやぶさ31号>		
			徒歩移動<仙台駅→ホテル>・チェックイン		
電力グループ					
			バス移動<JICA東京→東京駅>		
10:30	-	12:00	【視察】東京駅	日本コンサルタンツ株式会社(JIC) 技術顧問 大信田 尚樹氏	東京駅
14:16	-	16:08	【視察】East-i添乗<東京→仙台>	東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本) 国際事業本部 副課長 森田 洋介氏	East-i
			徒歩移動<仙台駅→ホテル>・チェックイン		

1/23 水

宮城  
(仙台)

1/24	木			チェックアウト・バス移動<ホテル→新幹線総合車両センター>				
		9:20	-	12:20	【視察】新幹線総合車両センター	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 仙台新幹線総合車両センター 副所長 小野寺 理氏	新幹線総合車両センター	
		土木グループ						
					バス移動<新幹線総合車両センター→仙台駅>			
		13:44	-	15:48	新幹線移動<仙台→東京/やまびこ142号>			
		16:00	-	17:00	【視察】東京駅	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 東京駅 内勤総括助役 森田 昇平氏	東京駅	
					バス移動<東京駅→JICA東京>・チェックイン			
		事務・電力・信通グループ						
					バス移動<新幹線総合車両センター→仙台新幹線運輸区>			
		14:30	-	16:00	【視察】仙台新幹線運輸区	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 仙台新幹線運輸区 区長 酒井 正人氏	仙台新幹線運輸区	
					バス移動<仙台新幹線運輸区→仙台駅>			
		16:57	-	18:32	新幹線移動<仙台→東京/はやぶさ60号>			
					バス移動<東京駅→JICA東京>・チェックイン			
		車両グループ						
13:40	-	15:20	【視察】新幹線総合車両センター	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本) 仙台新幹線総合車両センター 副所長 小野寺 理氏	新幹線総合車両センター			
			バス移動<新幹線総合車両センター→仙台駅>					
16:57	-	18:32	新幹線移動<仙台→東京/はやぶさ60号>					
			バス移動<東京駅→JICA東京>・チェックイン					
1/25	金	9:00	-	12:00	経験豊かな専門家との意見交換会 ①土木 ②電力/車両 ③信通 ④事務	日本コンサルタンツ株式会社 (JIC) 【土木】メイン:技術顧問 遠藤 健二氏 サブ:副部長 小武海 喜寛氏 【電力・車両】メイン:課長 清水 良則氏 サブ:課長代理 藤田 徹夫氏、係長 岡部 浩之氏 メイン:技術顧問 國分 秀樹氏 サブ:副部長 一木 剛氏、瀧澤 建治氏 【信通】メイン:技術顧問 内木 直和氏 サブ:係長 加納 知宜氏、課長代理 鑰山 航 【事務】メイン:取締役 東 充男氏 サブ:顧問 渡邊 榮美男氏、技術顧問 松本 壽夫氏	JICA東京 【土木】講堂 【電力/車両】SR407 【信通】SR409 【事務】SR410	
		13:00	-	14:00	経験豊かな専門家との意見交換会 (午前中の続き)			
		14:00	-	14:50	報告会準備		JICA東京 講堂	
		15:00	-	17:00	【報告会】	日本コンサルタンツ株式会社 (JIC)		
1/26	土				チェックアウト・バス移動<JICA東京→成田空港>			
		17:15	-	0:05	帰国移動<成田→ニューデリー/NH827>		成田空港 第1ターミナル	

### 3. 研修コースに関する所見

#### (1) 講義

日本の鉄道技術、鉄道の歴史、安全技術と安全教育、人材育成、労使問題など、日本の鉄道事業に関わる基礎的知識を習得するとともに、高速鉄道・新幹線の歴史、特徴、経済効果、現状に係る講義を取り入れた。また 4 分野の講義（①事務、②車両、③土木、④電力／信号通信）において技術的・専門的知識を深めた。日本の鉄道に関する全般的な知識に留まらず、新幹線に係る技術的な分野まで幅広く知識を習得・体験できる構成であった。

各講義における主な質問内容を表 1 に示す。

表 1 講義における研修員からの主な質問・コメント

講義内容	担当機関	研修員からの主な質問・コメント
新幹線の特徴・高速鉄道の発展の歴史と特徴	日本コンサルタンツ株式会社	<p>Q:新たに新幹線工事を行う際の予備調査は、東日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR 東日本」）も関わるのか。あるいは独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、「JRTT」）のみで行うのか。</p> <p>A:新幹線工事は公共事業であるため、国土交通省がマスタープランを作成する。その際に地方自治体を含めたすべての関係者が話し合い、予備調査を行う。実際の工事は JRTT が地方自治体の協力のもと行う。</p> <p>Q:Operation Control Center (OCC) で使っているシステム Computerized Safety, Maintenance and Operation Systems of Shinkansen (COSMOS) は AI やビッグデータを使っているのか。</p> <p>A:COSMOS は AI やビッグデータ以前に開発されたシステムなので、そこまでの進化はしていない。ただし、自然災害などで遅延が起きたときなど代替のダイヤを作る機能はプログラムされている。AI やビッグデータの利用は今後の課題である。</p> <p>&lt;コメント&gt; 日本の高速鉄道を含む鉄道事業の概要、発展が良く分かる内容であり、最初の講義としてふさわしかった。</p>
鉄道マンに期待すること	日本コンサルタンツ株式会社	<p>Q:漢字で新幹線とはどういう意味か。</p> <p>A:New Trunk Line という意味。新しい幹線鉄道であり在来線とは違う、という意味で名付けた。</p> <p>Q:JR 東日本の現在の社員数は何名か。</p> <p>A:約 48,000 人である。</p> <p>Q:1985 年から 1987 年にかけて負債が倍に増えている。何か特別な理由があったのか。</p> <p>A:複数の要素があり、すぐには答えられないが、一番大きな理由は 1987 年までの 10 年間で東海道、山陽、東北、上越と新幹線</p>

		<p>が立て続けに建設されたことが大きく影響していると思う。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>スライドにあるデータが古く、最新のデータが掲載されている資料を提供して欲しかった。</p>
<p>インドにおける 独立行政法人国 際協力機構の取 り組み／ インド高速鉄道 プロジェクト</p>	<p>独立行政法 人 国際協 力機構</p>	<p>Q:株式会社国際協力銀行（以下、「JBIC」）と独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）の関係を教えて欲しい。</p> <p>A:元々JICAは技術協力を担当し、JBICはODAローンに関わっていた。民主党に政権が変わった際、この二つの組織を一緒にするという案が出て、JBICのODAローンに関わる部署とJICAが一緒になった。</p> <p>Q:インドはなぜ日本の新幹線技術導入を決めたのか。当時はヨーロッパにもっと速い列車があったと思う。</p> <p>A:明確な理由は分からないが、安倍首相とモディ首相が良好な関係であったからかもしれない。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>JICAがどのような組織なのか、インドでどのような活動をしてきているのかを知ることができ、有意義な時間であった。</p>
<p>新幹線整備に関 する諸制度等</p>	<p>日本コンサ ルタンツ株 式会社</p>	<p>Q:過去の新幹線建設のための土地買収で、今後生かせる知見があれば教えて欲しい。</p> <p>A:土地買収ではJRTTが地主と丁寧に話し合い、補償内容について長い時間をかけて協議してきた。原則JRTTは必要な土地を買収することになっているが、例外として買収が難しい場合、民間に土地の所有権を残したままJRTTが空中権のみ取得して地上を使うという手段をとる。</p> <p>Q:1964年には時速210kmで東京大阪間が3時間10分かかったが、今はどうなっているのか。</p> <p>A:時速280kmで2時間20分である。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>内容が午前の講義「新幹線の特徴と発展の歴史」と重なる部分が多かった。</p>
<p>日本の新幹線シ ステム</p>	<p>日本コンサ ルタンツ 株式会社</p>	<p>Q:騒音の規定について知りたい。</p> <p>A:日本では厚生労働省の規定で住宅地では70ホーン、商業地域では75ホーンを超えてはならないことになっている。そのためパンタグラフの数を減らしたり、防音壁を設置したりしている。</p> <p>Q:トンネル内で事故が起きたときの対処はどのようなものか。</p> <p>A:大原則は、トンネル内で止まらないようにすることである。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>新幹線システムについての概要講義であり、技術、運行から教育訓練まで内容は幅広かった。質疑応答の時間も十分にあり有意義</p>

		であった。
高速鉄道における交通結節点の設備	日本コンサルタンツ株式会社	<p>Q:駅と周辺の同時開発はどのように進められるのか。</p> <p>A:各地方自治体が主導して鉄道会社やデベロッパーなどすべての関係者間で議論し、意見がまとまれば開発計画が進んでいく。意見がまとまらなければ大規模再開発は行われたいこともある。</p> <p>Q:総建設費用には OCC のシステムなどの設備費用も入っているのか。</p> <p>A:入っている。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>インド高速鉄道プロジェクトでも駅の再開発が計画に入っているため、日本の様々な事例は大いに参考になると思う。</p>
新幹線の安全マネジメント	株式会社 JR 東日本 パーソネルサービス	<p>Q:災害などで輸送障害が起きたときの対応はどのようなものか。</p> <p>A:まず乗客の安全確保が優先される。次に復旧のことを考える。現場で復旧できるものはその場で修理する。大規模災害の場合、対策本部を立ち上げ、各部署が集まりそれぞれの情報を集め、最適な方法を選ぶ。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>JR 東日本のソフト面としての様々な安全のための活動や、ハード面としての安全に対するシステムは、事故の多いインドにとっては参考になる内容であった。</p>
日本の設備メンテナンスについて	東日本旅客鉄道株式会社	<p>Q:メンテナンスシステムは JR 東日本が独自で開発したのか、それとも他の専門会社がカスタマイズして造ったシステムなのか。</p> <p>A:JR 東日本のグループ会社と協議して、その会社が仕様を考え開発している。</p> <p>Q:インドでは温度差が大きくレールの伸び縮みが起こるが、インド高速鉄道ではどのような対策をとるのか。</p> <p>A:レール温度 -10~60℃まで対応するようデザインしており、それをベースで締結しているので特に問題はないと考える。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>メンテナンス業務や費用について、多くを学べる内容であった。</p>
日本のトンネル技術	日本コンサルタンツ株式会社	<p>Q:青函トンネルの掘削方法はどの方式だったのか。</p> <p>A:ロシア製の全断面トンネル掘進機を購入し先進導坑を掘削したが上手くいかず、機械を使わない掘削方法を用い、人力で掘り進めた。</p> <p>Q:人口密度の高い都市部を走る場合、新幹線の安全な土被りはどれぐらいか。</p> <p>A:インドのように掘削箇所の地盤が硬い岩である場合はそれ程土被りの値は影響しない。</p>

		<p>Q:インドの在来線や地下鉄では上り下りで別々のトンネルを作るのに、新幹線では一つのトンネルしか掘らないのは何故か。</p> <p>A:費用を考慮しての判断だが、日本の経験から安全の面でも一つで問題ないと実証されているため。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>講師が関わったトンネル建設の工法が、土木工学を踏まえて分かり易く英語で説明され、大変興味深かった。</p>
コアスタッフ研修の概要	日本コンサルタンツ株式会社	<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>簡単な枠組みの説明であったが、日本側の研修に対する考え方などが分かる重要な内容であった。</p>
サービス改善	日本コンサルタンツ株式会社	<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>駅員や車掌のサービスの質の向上のための研修風景や、その後の仕事ぶりを撮ったビデオを中心に説明が行われ、理解しやすかった。</p>
JR 東日本の人事制度・福利厚生	日本コンサルタンツ株式会社	<p>Q:健康保険には全員が加入しなければならないのか。</p> <p>A:健康保険に加入するのは義務である。</p> <p>Q:社員への福利厚生にはお金がかかるが、見返りはないと感じないか。</p> <p>A:社員が皆、元気で明るく忠誠心を持って仕事をしてくれれば、それが一番いいことであり、そうなればその会社は発展していくと思う。</p> <p>Q:JR 社員は JR の病院での医療費は払う必要があるのか。</p> <p>A:通常の病院と同じように、保険を使ったうえで請求される医療費を払う必要がある。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>JR 東日本の手厚い福利厚生システムには驚いた。今後福利厚生を考えるうえでの一つの事例として参考になる内容だった。</p>

## (2) 見学

本研修では、下記研修先を訪問し（表 2 参照）、鉄道関連の博物館、鉄道事業における人材育成の現場、車両製造、信号製造、各種鉄道関連資材製造、主要駅及び周辺開発、新幹線延伸工事（高架橋）、新交通システムなどについて見学を行った。また在来線、新幹線の電気設備の検査のために導入されている新型電気・軌道総合検測車（East-i）に添乗しての説明も受けた。

見学における主な質問内容を、表 2 に示す。

表 2 見学における研修員からの主な質問・コメント

見学先	研修員からの主な質問・コメント
東日本旅客鉄道株式	Q:火災設備はあるか。

<p>会社 高速鉄道・在来線連 結駅：上野駅</p>	<p>A:消火栓が設置されている Q:貨物列車と旅客列車が両方走る路線や区間はあるか。 A:ある。 Q:ダイヤの遅れを立て直すために列車の番線、順番を入れ替える作業が終わったら、指令に知らせる必要があるか。 A:必要である。 &lt;コメント&gt; 初めての現場視察であり、興味深く視察することができた。プログラムの途中で休憩時間があれば良かった。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式 会社 高速鉄道・在来線連 結駅：大宮駅</p>	<p>Q:サイクル社員とはどういう意味か。またライフサイクルとはどれぐらいの年数か。 A:入社後社員は駅員、車掌、運転士とステップを踏み、そこで一つのライフサイクルが終了となる。その後再び駅業務に戻ってきた社員をライフサイクル社員と呼んでいる。一つのライフサイクルは約10年ぐらいである。その後は本社勤務になるなど、様々なキャリアパスを選ぶことができる。 Q:たくさんの乗客が列車に押し寄せた場合、どのように対処しているのか。改札内の入場人数により、自動で改札が閉鎖されるようなシステムはあるのか。 A:日本では大きな災害のときぐらいしか、そのようなケースは起こらない。駅員が確認して、プラットフォームの状況が危険だと判断した場合、改札を手動で閉める。 &lt;コメント&gt; 初めての見学であり、JR 東日本のすべての新幹線が通る大宮駅のプラットフォームの多さと商業施設には強い印象を受けた。</p>
<p>株式会社 JR 東日本 パーソナルサービス JR 東日本総合研修セ ンター</p>	<p>Q:車掌の仕事は、駅でのドアの開閉の他に何があるのか。 A:車内の巡回や乗客からの問い合わせへの対応などである。 Q:緊急時には駅と駅の間で新幹線を止めることはあるのか。 A:ある。しかしトンネル内にいた場合はトンネルで止めないことが大原則である。とにかくトンネルから出て停止する。橋の上でも止まらずに通り過ぎてから停止することになっている。 Q:新幹線の車体にはプラットフォームの状況を監視するためのモニターテレビはついていないのか。 A:車体に何か余分なものをつけるのは一番の問題である空気抵抗を増やすことになるため、つけていない。プラットフォームの状況は駅員がモニターテレビで監視し、車掌に発車 OK の指示を出すことになっている。 &lt;コメント&gt; 研修センターの広さ、整った設備を見ただけでも、JR 東日本がいかにも人材育成・安全に力を入れているかを良く理解できた。グループに分かれての各視察場所での時間配分も適切だった。</p>



<p>鉄建建設株式会社 成田研修センター</p>	<p>Q:スラブ軌道に使用する PC スラブの真ん中が空いているが、空力的、力学的に問題はないか。 A:研究開発、検査を経たうえで製品化されているため問題はない。</p> <p>Q:線路に落ちたときの人感知センサーマットで、他の物が落ちてきても、反応してしまうのではないか。 A:軽いものは反応しない。パソコンを入れたカバンが落ちてきた程度では反応しない仕組みになっている。</p> <p>&lt;コメント&gt; 民間研修所の多様な鉄道施設を時間をかけて見学できたことに加え、受け入れ先の真摯で努力を惜しまない対応に感激した。研修設備は在来線を再現して作られているものの、新幹線と共通する部分も見られるため、参考になった。</p>
<p>株式会社京三製作所 座間工場</p>	<p>Q:御社製の電気転轍機 TS 型及び NS 型のリードタイム（受注から発送までの時間）及び各型の年間生産台数について教えてほしい。 A:リードタイムは TS 型が約 8 か月、NS 型が約 4 か月。一年あたりの生産台数はどの型を何台受注したかによって変化するが、大まかに年間最大で計 1,200 台となっている。</p> <p>Q:御社製の TS 型電気転轍機の不具合率ほどの位か。 A:分岐器の方で何か問題が生じて、それが転轍機に悪さをして支障をきたすことはあるが、電気転轍機自体の不具合率はほぼゼロといえる。</p> <p>&lt;コメント&gt; 新幹線用の電気転轍機を一台、内部が見られる状態にして動作のデモンストレーションをしてもらうなど、興味深い内容であった。質疑応答の時間があまり持てなかったのは残念だった。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 東京駅 ※お客様視点での視察</p>	<p>Q:八重洲側にはなぜグランルーフのような大きな屋根を造ったのか。 A:グランルーフは長距離バスの待合スペースにもなっているため、乗客の利便を考え、雨が降っても良いように屋根を付けた。</p> <p>Q:2 階建ての新幹線は、なぜ将来廃止してしまうのか。 A:最高速度は時速 240km である。二階建ての新幹線は古いモデルであり、車高が高く揺れが他の新幹線に比べて大きく乗り心地が悪いというのが理由の一つだと思う。</p> <p>Q:清掃スタッフがいろいろとアイデアや意見を出し、それが採用されて実際に使われるようになった場合、何らかの報奨は出るのか。 A:高額ではないが報奨金が出る。また優れたアイデアに対しては社長賞が授与される。それらが清掃スタッフのモチベーションアップにつながる。</p> <p>&lt;コメント&gt; 周辺のビルを巻き込んでの大型駅再開発事業、丸の内と八重洲側で違うコンセプトを取り入れ全く違う外観にするなど、駅開発の一つの事例として大いに参考になった。</p>

<p>東日本旅客鉄道株式会社 新幹線総合指令</p>	<p><b>Q:</b>OCC に送られてくるシグナルの情報は、有線で送られてくるのか。または無線か。  <b>A:</b>光ファイバーで送られてくるので有線である。  <b>Q:</b>COSMOS のメインシステムがダウンした場合はどうするのか。バックアップシステムがあるとすれば、どれくらいの時間そのシステムを使い続けることができるか。  <b>A:</b>システムは基本 2 重化されている。COSMOS のメインシステムも同様で、バックアップがある。バックアップシステムは基本、使い続けても支障はないが、メインシステムが回復したのちは、メインシステムに切り替える。  <b>Q:</b>大地震の際、P 波が変電所を通して送られ、自動で送電をストップし、列車が停止する仕組みになっている。そのようなシステムは自律システム、または OCC からの指令が介在するシステムのどちらか。  <b>A:</b>大地震の緊急システムに限らず、同様のシステムは、自律・独立しており、OCC からの指令介在なしに、動作が完結する。  &lt;コメント&gt;  複数の質問に対して、機密上、保安上回答不可のものがあり残念であった。</p>
<p>鉄道博物館</p>	<p><b>Q:</b>日本最初の蒸気機関車の最高速度はどれくらいだったのか。  <b>A:</b>記録が残っていないので分からないが、推測で最高時速は 60km くらいだったと思う。  <b>Q:</b>新幹線の技術はどこかで学んだものを基に日本で開発したのか。  <b>A:</b>日本独自の技術である。明治に外国から高いお金を払って鉄道技術を買った経験から外国から買うのではなく、一から技術を開発した。  &lt;コメント&gt;  子供から高齢者までが楽しんで鉄道のことを学べるよう工夫された展示やシミュレーションなどの設備に驚いた。見学の要所で写真を撮る時間を確保してもらえたため、満足だった。</p>
<p>独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 武雄鉄道建設所管内 工事</p>	<p><b>Q:</b>スラブ軌道の突起部に流し込むコンクリートの強度試験はどのようなものをするのか。  <b>A:</b>硬さを調べるためにサンプルを取って落としたり温度を調べたりと様々である。  <b>Q:</b>スラブ軌道の下にどのようにしてセメントアスファルトを入れるのか。  <b>A:</b>不織布の袋に入れて敷く。  &lt;コメント&gt;  コンクリート高架橋、トンネル内でのレールの溶接の様子など、様々な現場を見ることができ、興味深かった。</p>
<p>株式会社日立製作所 笠戸事業所</p>	<p><b>Q:</b>この工場は車両の製造だけではなく、メンテナンスも行う部署があるのか。  <b>A:</b>日本では製造はメーカーが行い、メンテナンスは通常鉄道会社がメーカ</p>

	<p>一の協力を得て行う。海外で有償メンテナンスサービスを提供することはある。</p> <p>Q:台車の最軽量化は実現したのか。それともまだ重量を下げられるのか。</p> <p>A:アルミニウムを使用することによって、ほぼ限界に達している。</p> <p>Q:世界ではロボットによる溶接が主流になっているが、この工場ではまだマニュアルで行っているのか。またマニュアルで溶接をする利点は何か。</p> <p>A:当社でもロボットを使っている行程がある。溶接時に初層を溶け込ませるのはロボットでは難しいと判断して人間がやっている。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>主要な製造過程を見学することができ、貴重な経験になった。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 新大宮変電所</p>	<p>Q:インドではき電変電所の変圧器はすべて屋外に設置するので、屋内に設置してあるのは初めて見た。屋外にあればスパークや臭いなどを見つけ次第対応するのが容易であるが、屋内にあるとそのような異常を検知するのが難しいと思われるが、どのような仕組みを使っているのか。</p> <p>A:異常を検知する機器としては保護リレーと火災報知器が設置されている。火災報知器は信頼性が高いので、むしろ屋内に設置してある変圧器の方が異常を検知しやすい。</p> <p>Q:屋内の大規模な変圧器を取り替える場合の手順はどうなっているか。</p> <p>A:建屋の一面の壁は比較的容易に取り外せる構造になっているので、壁をまず取り払い、機器を使って変圧器を引き出し、新しい変圧器の搬入作業後に再び壁を元通りに戻すという手順である。搬入して、組み立て完了までには約一ヶ月を要する。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>インドにある同様の施設と比較しながら、日本の変電所施設の特徴をよく理解できた。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 大宮信号通信技術センター</p>	<p>Q:日々の業務にはどの位の時間がかかるか。</p> <p>A:所要時間は日ごとにまちまちで、プランごとになる。</p> <p>Q:開発工事事務所では、どのような開発を行っているのか。</p> <p>A:例えば、Automatic Train Control (ATC) システムの変更などをメーカーと協力して行っている。支社は主に検査修繕を担当し、工事事務所は大規模なシステムチェンジなどを担当している。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>仕事の流れや現場作業者との連絡方法などを理解することができた。</p>
<p>日本電設工業株式会社 中央学園</p>	<p>Q:在来線用架線と新幹線用架線の違いは何か。</p> <p>A:新幹線は時速 320km の高速走行をし、振動が大きいので、5.5 トンの張力を持つ AC ヘビーコンパウンドカテナリーを使用する。それに対して在来線の最高速度は時速 120km で振動は小さいので張力が 2 トンの DC シンプルカテナリーを使用する。このとき DC の大電流を流すので電線径は大きなものを用いる。</p>

	<p>Q:インドではプレサグ架線が一般的だが、日本にもあるか。</p> <p>A:フランスの高速鉄道でプレサグ架線が使用されていることを受け、様々な調査研究を行った結果、高速運転ではプレサグは集電能力を向上させることは期待できないと判断されており、日本では一般的ではない。プレサグを構築するにはドロッパーの長さを調整する必要がある。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>見学では詳細に技術的説明があり、質疑応答でもさらに細かい技術説明を丁寧に行ってくれたため、有意義であった。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 仙台新幹線保線技術センター</p>	<p>Q:レールの破断は年に何回くらい見つかるか。</p> <p>A:破断は当社以外の新幹線を含めゼロ。超音波探傷などにより、破断に至る前の損傷を発見し、そのような損傷が見つければ、レールの布設替えなどして対処している。</p> <p>Q:維持管理作業（工事・修理・部品の交換など）はすべて検査後の修理ニーズに基づいて行われているのか、それとも定期的な設備交換・修理を実施しているか。</p> <p>A:すべて検査の結果を受けて実施する、ニーズに基づいた維持管理作業である。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>プログラムの内容自体が、現在及び将来担う業務に直結しているため、とても有意義な訪問であった。保線技術センターのスタッフはとても熱心で、説明及び質問への応答がとても丁寧であった。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 East-i 添乗</p>	<p>Q:列車無線に関連する装置を水、ダスト侵入から保護するレベルは IP 基準上どうなっているか。</p> <p>A:アンテナ以外の機器は車内に設置されているので問題ない。</p> <p>Q:検測後のデータの流れを説明して欲しい。</p> <p>A:基本的には測定データは光磁気ディスク (MO) などの媒体で持ち出し、OCC のサーバーに格納され解析される。さらに保守管理に必要な資料を作成し、各現場の端末に解析データを転送する。異常データが検出された場合は、OCC に速報データが直接送られ、必要な指令を行い、現場で対処する。</p> <p>Q:パンタグラフのモニター装置には夜間やトンネル内での走行中はクリアな画像を撮影できるような赤外線カメラ等は設置されているか。</p> <p>A:赤外線カメラはないが照明設備が設置されている。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>East-i の走行中、多くの質問に対応してもらえたため満足であった。走行中は立ちっぱなしとなり、少し疲労を感じた。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 新幹線総合車両セン</p>	<p>Q:センターでは一回に何両メンテ作業ができるのか。</p> <p>A:E5 の 10 両編成を例にとると、1 編成 15 日～16 日かかり、一回に 30 車両まで収用できる。</p>

<p>ター 【全体】</p>	<p>Q:メンテナンス後、新しいパンタグラフに替えるということだが、すべてまるごと新品にするのか。 A:パンタグラフそのものを全部ではなく、ベアリングや擦り板など消耗品のみの交換となる。 &lt;コメント&gt; 質問に対して、担当各箇所の専門家が適切に回答をしてくれたため、理解が深まった。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 東京駅</p>	<p>Q:東京駅として、2020年の東京オリンピックに向けて準備していることはあるか。 A:現在、多様な乗客の集客を念頭に、バリアフリーなどの駅構内改修工事などを実施している。 Q:駅構内に飾られている銀の鈴は、駅長室付近でみた銀の鈴と同じものか。 A:今構内のパブリックスペースに飾られている銀の鈴は4代目で、駅長室付近にあるのは3代目。古くから待ち合わせ場所のシンボルとして親しまれている。 Q:両側に店がある地下通路は、新たに掘削して創造した空間か。 A:元々あった通路を拡張したもの。構内の改修事業の一環として拡張した。拡張した部分は横幅のみで、列車の運行などには全く支障は生じていない。 &lt;コメント&gt; 1時間という短い視察の中に、概要説明及び視察内容がコンサイスに分かりやすく示されていた。東京駅で取り入れられているアイデアを、ムンバイなど大都市の駅開発に役立てることができると考える。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 仙台新幹線運輸区</p>	<p>Q:乗車前のアルコール検査でアルコールが検知された場合の交替要員は常に待機しているのか。 A:交替要員として待機している人はいない。インストラクターが乗務するか、休みの人に連絡して業務についてもらう。 Q:新幹線ドライバーになってどれ位経験を積みばインストラクターになる資格を得られるのか。 A:3~5年かかる。試験はないが仙台運輸区だけで決められない。過去の履歴やパフォーマンスを評価した上で決まる。 &lt;コメント&gt; 乗務時間や勤務体制などインドと異なることが多かったため、興味深い視察だった。視察時間、質疑応答の時間も十分であった。</p>
<p>東日本旅客鉄道株式会社 新幹線総合車両センター</p>	<p>Q:JR 東日本は JR の他会社と相互乗り入れをしているが、仕業点検等は車両が帰属する会社で行うのか、会社間で連携して行うのか。 A:仕業のみは相互の会社の領域にある車両に対して社を超えて実施する。費用は相互に払う。</p>

【車両】	<p>Q:保守シミュレーター施設の各種故障メニューが 64 種類あるが、実際の運行で起こった事象が基となっているのか。</p> <p>A:実際の運行では 10 件程度の経験しかない。しかし、それらに付随することをベースに拡大的に事例を作成してメニュー化している。</p> <p>&lt;コメント&gt;</p> <p>各配電盤や機器装置について多くを学ぶことができた。質問にも丁寧に対応してもらい、有難かった。</p>
------	---

### (3) 意見交換会

意見交換会に出席する専門家の専門分野に対し、事前に研修員から質問を募り、専門家に回答を準備してもらったため、すべての質問に的確な回答が得られた。

意見交換会における主な質問内容を、表 3 に示す。

表 3 意見交換会における研修員からの主な質問・コメント

研修員からの主な質問・コメント
<p>(土木)</p> <p>Q:レール温度の変動に対応するためとられている新幹線の対策について教えて欲しい。ムンバイ・アーメダバード高速鉄道プロジェクトでは 10～65℃で変動する。</p> <p>A:新幹線は、最高レール温度 60℃、最低レール温度-10℃の温度範囲において、温度変化による軸力や破断時の開口量を考慮し、30℃～20℃の設定可能温度範囲でロングレールを設定している。</p> <p>Q:E5 系新幹線が運行中に出す騒音の最大値はどれぐらいか。</p> <p>A:車両あるいは構造物の性能向上により、日本では、日中の最大値を住居以外の地域では、75dB 以下としている。また環境省では、現に 80dB を超える区域について、可及的速やかに環境基準が達成できるよう、期限付きで示している。</p>
<p>(電力)</p> <p>Q:JR 東日本の在来線 OCC、新幹線 OCC、及び将来的にビッグデータや、IOT 及び AI を備えた OCC の比較を教えて欲しい。</p> <p>A:電力指令の OCC 設備は、電力設備の監視と制御することが目的。新幹線と在来線で違いはない。ビッグデータを活用した検討は機密情報であるため、比較できない。</p> <p>Q:日本の新幹線では、送配電設備の設計に当たってどのようにスイッチングステーション（開閉所）の数を決めているのか。</p> <p>A:変電所は、負荷容量から想定して算出しており約 50km 間隔で設置。単巻変圧器は電圧降下及び通信誘導対策のため約 10km 間隔が必要。</p>
<p>(車両)</p> <p>Q:車両車庫には様々なメンテナンス機器があるが、それらを高電圧変動から守るためにどんな対策が取られているか。</p> <p>A:日本においては、供給側の電圧許容率の範囲が電気事業法で定められている。したがって、きわめて安定的な電力が電力会社から供給される。また、電気機器についても、製造者に対して許容電圧幅の規格値が定められており、製造者はその規格を満たした製品を製造する。したがって、</p>

日本ではユーザーである鉄道事業者が、自設備の保護のために電圧変動対策を行う必要がないため、実施していない。

(信号・通信)

Q:安全性、信頼性、定時性を評価するために、どのような目標と計測方法がとられているのか。例えば列車の遅延について1日、1ヶ月、1年あたりという単位で定時性が計算されるのか。また、これまでに上記の変数を改善するためにどのような方法がとられてきたのか。

A:定時性については、輸送指令が年間の総遅延時分から一列車当たりの平均遅延時分を算出している。また、列車の最大遅延時分が30分以上、10分以上30分未満、10分未満の三つのクラスに分類している。前年よりも輸送障害件数を減らすこと、総遅延時分を削減することを目標にすることが多い。特に同種事象の発生を防ぐこと(再発防止)に力を入れている。・列車遅延の原因が、装置に起因する場合や、取扱い誤りの場合は、対策を実施し再発防止に取り組む。また、一斉点検等を実施する場合もある。定時性の確保のため、日中帯での作業は機器室を含め禁止している。(リカバリー作業は除く)

(事務)

Q:グリーンスタッフとテンポラリースタッフの違いは何か。

A:グリーンスタッフは一日に決められた時間、例えば9時から17時まで働き、週休二日制であるが、テンポラリースタッフは時間も働く曜日も自分で決めることができる。

Q:テンポラリースタッフからJR東日本の正社員になることはできるのか。

A:二通りの道がある。一つは正式なJR東日本の採用試験を受ける。もう一つはグリーンスタッフになってからJR東日本の正社員登用の試験を受ける。

Q:全従業員のうち女性を何%採用しなければいけないという政府が決めたルールはあるのか。

A:何%という決まりはないが、男女雇用機会均等法があり、男女間の差別を禁じている。しかし実際問題として、女性には難しい現場もある。

#### (4) 報告会

報告会では、「研修を通して得た最大の学び」について、①土木1、②土木2、③電力、

④車両、⑤信号通信、⑥事務の6つのグループに分かれて研修員より報告が行われた。

主な報告内容を表4に示す。

表4 主な報告内容

項目	報告内容
グループ1: 【土木】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道運用における総合統制、管理システムの重要性 (COSMOS の存在意義の大きさ)</li> <li>・ 新幹線運行を支える各種安全システム (ATC/Centralized Traffic Control (CTC) /地震対応システムに代表される災害に備えたフェイルセーフ)</li> <li>・ 高速鉄道における軌道に関する総合的な学び (スラブ軌道/車両防護機器/レール溶接技術等)</li> <li>・ 軌道建設、運用、保守技術の学び</li> <li>・ JR東日本総合研修センターの役割 (高度な研修資機材とカリキュラム)</li> <li>・ 日本の鉄道の歴史からの学び (国鉄から民営化、現在に至るまでの変遷)</li> <li>・ 常に限界に挑戦し続ける新幹線 (速度向上/環境配慮/安全の維持等)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>新幹線の建設技術（スラブ軌道の開発経緯と技術／200m 単位のレールスパンでの仮付設技術／軌道上の多様な高度微細技術）</li> </ul>
<p>グループ 2 : 【電力、車両、 信通、事務】</p>	<p><b>【電力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在来線での蓄積技術を活かした新幹線開発経緯からの学び</li> <li>計画と実現（技術開発と現場応用の持続的融合が生み出した新幹線）</li> <li>鉄道人材に求められること（意識／安全／改革事例）</li> <li>新幹線のシステムと建設（応用建設技術／安全対策／人材教育等）</li> <li>高速鉄道駅敷設計画の重要性（実現可能な都市計画と開発効果の予測の重要性）</li> <li>保守制度、各種施設からの学び（体制／人事の縦割りから水平化／緻密な保守計画）</li> <li>大宮信号通信技術センター（監視と検査の実情／運行支援等）</li> <li>新型電気・軌道総合検測車（East-i）：検査・分析システムとその特徴</li> <li>新大宮変電所：新幹線の動力機器や変圧器、回路遮断機等の設備による騒音を最小限に抑える遮音壁及び音響制御システム</li> </ul> <p><b>【車両】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本人の勤勉性と献身と技術の融合が適えた短期間での新幹線運行の実現</li> <li>日本が築きあげてきた死亡事故ゼロこそが世界に求められる宝であること</li> <li>新幹線のような巨大インフラの実現は、信頼性の高い組織を築き、厳格、緻密な採算計画に基づいてはじめて実現が適うということ</li> <li>鉄道の高速化は同時に乗り心地のよい環境を乗客に提供する重要性和と並行して実現される。</li> <li>技術革新を継続的に行うことの重要性</li> <li>蓄積されていく知的財産の惜しみなき伝達と共有</li> </ul> <p><b>【信通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新幹線の安全性（長い歴史で死亡事故 0／総合指令室と現場の強い結びつき／ATC に代表される技術の応用／East-i に代表される日常的な監視、検査、保守の連動等）</li> <li>新幹線の信頼性（年間平均遅延 1 分以内／変電所、転轍機等の高度デザイン／COSMOS に代表される統合的運行支援システム）</li> </ul> <p><b>【事務】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新幹線をとりにまく人材養成、組織体制、ソフトウェア及び各セクションに信頼性の高い機器、施設のハードウェアの調和が常に保たれていること</li> <li>鉄道計画の中心に常に顧客を置き、各部門の活動が細部にわたって目的管理されていること</li> </ul>

(5) その他

- 第六バッチは高速鉄道公社職員を対象に行われ、研修員は系統別に次の 5 分科に分けられてのグループ構成となった：グループ 1：【土木】 13 名、グループ 2：【電力】 5 名、【車両】 3 名、【信通】 3 名、【事務】 5 名。当該構成に基づいてプログラム項目が選定され、内容に応じて、全体、基本グループ別（グループ 1、グループ 2）、分科別（複数合流または単分科）に分かれて実施された。
- 高速鉄道公社職員である研修員は、「新幹線の特徴・高速鉄道の発展の歴史と特徴」、「鉄道マンに期待すること」、「インドにおける JICA の取り組み／インド高速鉄道



プロジェクト」「新幹線整備に関する諸制度等」、「高速速鉄道における交通結節点の整備」等の講義を受講し、その概要と基礎知識を習得した。

- 新幹線運行本部、JR 東日本本社、JR 東日本総合研修センター、新幹線総合車両センター等の視察プログラムでは、基本原則、運行管理、関係システム等の説明を受け、現場を再現した設備やシミュレーターを実体験し、新幹線に特化した知識と情報を得ていた。九州新幹線トンネル工事現場、鉄建建設成田研修センター、日本電設中央学園、京三製作所座間工場、日立製作所笠戸工場、軌道総合検測車（East-i）添乗体験、高速鉄道・在来線連結駅等の分科グループ別のプログラムでは、各系統に直結した説明や現場視察が行われ、研修員は高い関心を示していた。
- 専門家と研修員との意見交換では質疑応答が活発に行われ、時間の限りで疑問点を解消し理解を深めていた。一部、他系統への関心度が低い研修員が見受けられたが、前項（4）報告会の「表 4 主な報告内容」に記載の通り、研修員は総じて有益な主要知識を多く習得できたようだ。冬季に実施されたが、天候も比較的安定しており、体調を大きく崩す者もいなかった。
- 個々の関心テーマに圧倒的な拘りを持ち、自身の専門分野に関わる研修項目に執着する傾向が強かった。当該特性については、インド高速鉄道公社職員として、既に各人の担当分野において明確なタスクと課題を持ち合わせている点があげられる。当該研修の位置づけは個別対応型の技術追求をその目的としていない点、自己の関心分野を超えて、我が国の新幹線の総合的な実情を幅広く学ぶ、即ち、総てから学ぶことが目的とされていることを来日前、来日後のオリエンテーション等においてしっかりと認識させることが肝要と思料する。研修実施機関として、今後は上記課題をより意識して臨みたい。

#### 4. 研修成果の活用

##### (1) 研修で得られた成果について

研修終了後に実施したアンケートに基づき、本研修の成果である研修員の学びは、以下のような視点があげられる。

- ① （土木）新幹線の設備（軌道、構造、駅、その他のビルや機器）、保線設備管理システム、ATS と ATC の設置など。
- ② （電力）OCC の重要な役割や詳細、新幹線システムについて／社員教育のための研修施設について。
- ③ （車両）秩序に基づいて訓練された通りに、また、要求に適うように緻密で確実な仕事をこなすことや仕事に対する精度の高さなど。
- ④ （信通）実際の作業環境における機器について／安全性の向上、コストや人員削減に有益な手法など。
- ⑤ （事務）管理された組織、研修、お客さまサービスについて／列車から他の輸送手段への乗り継ぎやビジネスセンターとしての駅開発。

なお、研修終了後実施のアンケートを集計した結果、『質問 9. 本邦研修で得た日本の知

識・経験は役立つと思いますか』の回答は、表 5 で示すように 8 割程度の研修員が直接的または何かしらの形で業務に活用・応用できると評価している。この結果からも、本研修はある一定の成果をあげることができた、と判断できる。

表 5 集計結果

回答（選択式）	回答者数
はい、業務に直接的に活用することができる。	17
直接的に活用することはできないが、業務に応用できる。	8
直接的に活用、応用することはできないが、自分自身の参考になる。	4
いいえ、全く役立たない。	0

## (2) 成果の活用方法について

(1) の研修成果に対して、研修員はその成果をどのように活用できるかを、下記のように提案している。なお、(1) の番号にそれぞれ内容を対応させている。

- ① （土木）インドでは地下鉄事業者が同じようなインフラや運行システムを採用している。そのため、踏切のない軌道構造システムや新幹線専用の保守計画、統合運行指令などは高速鉄道でも容易に導入できるであろう。インド国民は高速鉄道のシステムに馴染んでいないため、改札口にはセンサー、車掌室には監視カメラを設置すべきである。
- ② （電力）インドと日本の両国間で知識と文化を共有し、同じようにインドに新幹線技術を導入する。社員のモチベーションを上げることを目指す。
- ③ （車両）仕事は常にどのレベルにおいても要求通りに設定期限に合わせて、正確に完成させる必要がある。特に仕業検査のような毎回完璧さを求められる仕事が必要な鉄道業においては、これが当てはまる。この研修で得た知識はその上で大変有効である。
- ④ （信通）インドでは日本とほぼ同じ信号・通信システムを導入しようとしている。そのため、マイナーな変更が行われた上で同じ機能が直接適用される可能性がある。適用は複数のレベルで行われる必要がある。
- ⑤ （事務）知識レベルの高さを保つとともに導入するためには、その分野の研修や訓練が必要と考える／インドの駅周辺には使われていないスペースがあり、その地域をビジネスセンターとして開発することで多くの利益が生まれる。

インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修（第六バッチ）高速鉄道公社職員研修 第2回  
 Training Program for Ministry of Railways (MOR)  
 and National High Speed Rail Corporation Limited (NHSRCL) Officials (The 6th Batch)

研修員名簿  
 List of Participants

Group 1 (C1-C14) \*C=Civil/ Contract/ Design

Team チーム	Reporter No. 報告者No.	Photo 写真	Name 氏名	Katakana Name カナ氏名	Sex 性別	Specialty 専門	Zonal Railway 地方支局	Position 肩書
1	C1		WAGH NANDALAL DHARMA	ワー・ナンダラル・ダル マ	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager 上級管理者
	C2		RATHORE MARTAND SINGH	ラトレ・マルタンド・シ ン	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy General Manager 総管理者補佐
	C3		キャンセル					
	C4		GUPTA ANKIT	グプタ・アンキット	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager/Architecture 上級管理者/建築
	C5		SRIVASTAVA GAURAV	スリヴァスタヴァ・ガウ ラヴ	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	C6		JAIN HIMANG	ジャイン・ヒマング	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	C7		SHUKLA ANOOP	シュクラ アヌーブ	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy Chief Project Manager プロジェクト管理者補佐
	C8		DAHAK GAJANAN VISHNUPANT	ダハク・ガジャンン・ ヴィシュヌバント	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager 上級管理者
	C9		KAUSHIK RUPESH	カウシク・ルペシュ	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager 上級管理者
	C10		GUPTA MANOJ KUMAR	グプタ・マノジュ・ク マール	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager /Track 上級管理者/軌道
	C11		JAIN RACHIT	ジャイン・ラチット	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	C12		SINGH KRISHAN	シン・クリシャン	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	C13		RAVADA CHANDRASEKAR	ラヴァダ・チャンドラセ カール	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	CAD Designer キャド デザイナー
	C14		SAROJ RAJNEESH	サロジ・ラジネーシュ	M	Civil/Contract/Design	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy Chief Project Manager プロジェクト管理者補佐

インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修（第六バッチ）高速鉄道公社職員研修 第2回  
 Training Program for Ministry of Railways (MOR)  
 and National High Speed Rail Corporation Limited (NHSRCL) Officials (The 6th Batch)

研修員名簿  
 List of Participants

**Group 2 (E1-E5, R1-R3, S1-S3, A1-A5)**

\* E=Electrical, R=Rolling Stock, S=Signalling & Telecommunication, A=Administration

Team チーム	Reporter No. 報告者No.	Photo 写真	Name 氏名	Katakana Name カナ氏名	Sex 性別	Specialty 専門	Zonal Railway 地方支局	Position 肩書
<b>2</b>	<b>E1</b>		<b>SARKAR KINGSHUK</b>	サルカル・キングシュク	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy General Manager/ System 総管理者補佐/システム
	<b>E2</b>		<b>CHAWADA DESHRAJ SINGH</b>	チャワダ・デシュラジ・ シン	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy Chief Project Manager プロジェクト管理者補佐
	<b>E3</b>		<b>SINGH AJAY KUMAR</b>	シン・アジャイ・クマール	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy Chief Project Manager プロジェクト管理者補佐
	<b>E4</b>		<b>SAINI PANKAJ</b>	サイーニ・パンカジュ	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	<b>E5</b>		<b>MOTE ANIL KUMAR</b>	モテ・アニル・クマール	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	<b>R1</b>		<b>NAQVI WAHEB</b>	ナクビ・ワヘブ	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager 上級管理者
	<b>R2</b>		<b>SINGH NIDHI</b>	シン・ニドゥヒ	F	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	<b>R3</b>		<b>YARLANKI THRIMURTY</b>	ヤルランキ・スリムル ティ	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	<b>S1</b>		<b>TANDEL PRANAVKUMAR MANUBHAI</b>	タンデル・プラナヴクマ ル・マヌバイ	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Manager 管理者
	<b>S2</b>		<b>PANDEY JAYANTH</b>	パンデイ・ジャヤンス	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy Chief Project Manager プロジェクト管理者補佐
	<b>S3</b>		<b>BISWAS SHYAMAL</b>	ビスワス・シュヤマル	M	S&T/Electrical/Syste m/RS	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy Chief Project Manager プロジェクト管理者補佐

インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修（第六バッチ）高速鉄道公社職員研修 第2回  
 Training Program for Ministry of Railways (MOR)  
 and National High Speed Rail Corporation Limited (NHSRCL) Officials (The 6th Batch)

研修員名簿  
 List of Participants

<b>2</b>	<b>A1</b>		<b>SINHA ANUP KUMAR</b>	シンハ・アヌップ・ク マール	M	Admin/HR/Finance/O thers	NHSRCL 高速鉄道公社	Deputy General Manager - HR 総管理者補佐/人的資源
	<b>A2</b>		<b>NAGAICH SANJEEV MAHAVIR</b>	ナガイク・サンジェブ・ マハヴィル	M	Admin/HR/Finance/O thers	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager - Finance 上級管理者/財務会計
	<b>A3</b>		<b>SRIVASTAVA ASHUTOSH</b>	スリバスタヴァ・アシュ トシュ	M	Admin/HR/Finance/O thers	NHSRCL 高速鉄道公社	Senior Manager - Finance 上級管理者/財務会計
	<b>A4</b>		<b>BHANU NISHANK</b>	バヌー・ニシャンク	M	Admin/HR/Finance/O thers	NHSRCL 高速鉄道公社	Assistant Manager/Marketing&Communicati on 管理者補佐/マーケティング&コミュ ニケーション
	<b>A5</b>		<b>PANDA MINKETAN BRUNDABAN</b>	パンダ・ミンケタン・ブ ランダバン	M	Admin/HR/Finance/O thers	NHSRCL 高速鉄道公社	Protocol Officer 儀典官

【研修風景】



1/15 開講式



1/15 JIC 講義



1/15 JICA 講義



1/15 国土交通省 講義



1/15 ウェルカムパーティ



1/16 JIC 講義



1/16 上野駅 視察



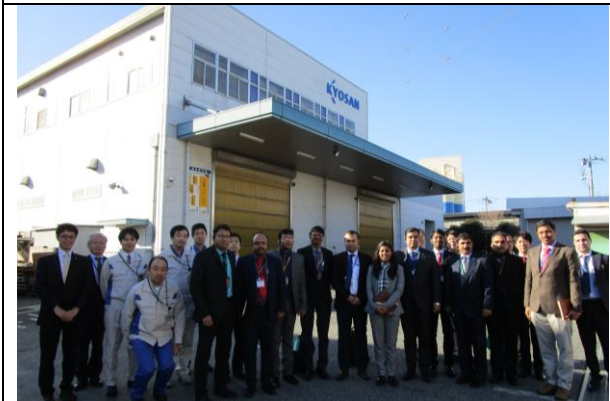
1/17 JR 東日本総合研修センター 視察



1/18 JR 東日本本社 講義



1/18 東京駅 視察



1/18 京三製作所 視察



1/18 鉄建建設 視察



1/21 鉄道博物館 視察



1/22 日立製作所 視察



1/22 新幹線工事現場 視察



1/23 東京駅 視察



1/23 仙台新幹線保線技術センター 視察



1/24 新幹線総合車両センター 視察



1/25 専門家との意見交換会



1/25 研修員による報告会



※自由記述回答欄におけるコメントは要点をまとめて翻訳し、似通ったコメントは1つにまとめること。

英語コースの場合は、案件担当の判断により英語のままの記載も可。ただし、その場合でも要点をまとめ、似通ったコメントは1つにまとめること。

全訳する必要はなく、代表的なコメントや研修改善への参考となる意見を取り上げて翻訳することとする。

集計年月日：2019/2/8

### 質問集計表/Questionnaire

研修コース名	インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修（第六バッチ）
研修期間	・受入期間：2019/1/14～1/26（13日間） ・研修期間：2019/1/14～1/25（12日間）
受入人数	29名

#### パート1：研修成果について/ PART I Program output

案件目標・単元目標は各研修にて設定

「科目」について、以下の質問に答えてください。

特に有益であった科目

〈Subject〉科目・〈Reason〉理由

#### グループ1【土木C】

##### ・九州新幹線延伸工事現場視察（9名）

- －実用的な土木技術が扱われており、インドにおける担当業務に有用である。
- －高架橋、軌道建設技術を実際に目の当たりにした経験は、インドにおける高速鉄道のインフラ整備分野と運行、保守の分野に直接活用できる。
- －実務的な土木技術面を網羅しており、実際の施工に大いに役立つ。
- －鋼桁橋梁の工事、軌道敷設、専用車を用いた軌道スラブ布設、ガス圧接による溶接に関する知識を得ることが適った。
- －施工を直接見学することが適ったことは有意義であった。

##### ・遠藤氏によるトンネル技術の講義（4名）

- －遠藤氏によるトンネル技術の講義は、多様な技法や事例が詳細に説明されており有意義であった。

##### ・鉄建建設訪問（2名）

- －自身が軌道エンジニアリングに関係しているから。
- －自身が土木技術に関係しており有意義だった。

##### ・仙台新幹線保線技術センター視察（2名）

- －実際の新幹線施工、維持管理に関連しているため。
- －土木の技術者であり、中堅管理職である自身にとって興味深い内容であった。インドにおける高速鉄道のインフラ建設の分野と運行、保守の両翼を学ぶことが適った。

##### ・東京駅視察（1名）

- －周辺の再開発に特に焦点が当てられていて有意義であった。

・JR 東日本本社訪問 (3名)

ー日本における新幹線運行についてのアイデアを得た。

・JR 東日本総合研修センター/ 保守基地/ 駅の視察 (各2名)

ーすべての視察が実務を学ぶ上で有益だった。

・新幹線、高速鉄道の特徴/ 鉄道マンに期待すること/ 新幹線の歴史/ 専門家との意見交換会 (各1名)

グループ2【電力 E、車両 R、信通 S、事務 A】

・新幹線総合車両センター視察/車両保守管理と技術 (5名：R2名、A1名、E1名、S1名)

ー新幹線の各種メンテナンスについての詳細な説明を受けることが適った。スタッフの説明が非常に興味深かった。(R) メンテナンス及び検査は列車の安全運行に最も重要。センターでの説明、視察はその重要性について非常によくカバーされた内容であった。(R)

・総合検測車 East-i 視察 (6名：E3名、S2名、A1名)

ー検査車輛の説明、試乗においては電気関係のほぼすべてが網羅されていた。(E)

ートローリー線、軌道、変圧器、ATC などの異常を、高速走行しながら自動的に検知可能なことは非常に重要である。(R)

・日立製作所笠戸製作所視察 (4名：A2名、R2名)

ー新幹線の実際の製造工程の見学が適った。日立関係者と実のある意見交換を行うことができたことは車輛エンジニアにとって非常に有意義であった。(R)

・新幹線総合指令室視察 (4名：E3名、S1名)

ーOCC の視察では、その重要な役割と詳細について学ぶことが適った。新幹線運行のシステムと安全について身を以って学ぶことが適った。(E)

・新大宮変電所視察 (2名：E1名、S1名)

ー変電所の実際の規模やレイアウトを実感できた。

・駅視察 (4名：A3名、E1名)

ー自身はマーケティング、マスコミ、市民との対話担当であるが、駅の果たす幅広い役割、あり方について今後はより明確に対応することが適う。(A)

・JR 東日本総合研修センター (3名：S1名、E1名、A1名)

ー実際にインドで研修施設に携わる者として良いモデルである。(S)

ーJR 東日本の社員教育のための研修施設を深く理解できた。S&T, OHE そして軌道、及び安全についての研修は大変参考になった。(E)

・お客様満足とサービス (1名：A1名)

ーお客様は常に新しく信頼のおけるサービスを求めている。それに対して新しい施設やサービスで答えることができる。(A)

・新幹線の技術と O&M (1名：A1名)

ー機構と最新技術は高速鉄道プロジェクトの効率と生産性において大事なものである。そして訓練を受けた人材はプロジェクトを成功裏に終了させるのに不可欠である。また人材とは単に雇用して終わりというわけではなく、プロジェクトにとって大変重要な部分である。(A)

・京三製作所見学、仙台新幹線運輸区 (1名：S1名)

ー情報、知識を得て疑問が解決できた上に実際の作業環境で機器を見学することができた。(S)

## 必要ではなかった科目

〈Subject〉科目・〈Reason〉理由

### グループ 1【土木 C】

・新幹線総合車両センター視察（2名）

－土木に特に関係していないから。

・上野駅視察（2名）

－東京駅視察内容で充分であり、2つの駅を見学する必要を感じない。

・なし（1名）

－土木分野以外で新幹線の多様なシステムの重要な概要を理解することが適った。

・鉄道マンに期待すること/JR 東日本の安全管理/高速鉄道における交通結末点の整備等 講義（3名）

－項目設定は間違いなく良いが、プレゼンテーションの焦点がぼけていて、日本の新幹線に関する深いデータ分析が欠如していた。項目の多くは素人が学ぶ視点で網羅されており、高速鉄道の技術者人材の視点、高速鉄道駅の構造的要件、線形要件などが欠如しており、担当するインドの専門家カウンターパートには物足りない。新幹線の運行は概要のみで、日本の高速鉄道の正確な運転及び無事故、無摩耗、無破断につながる、もっと深いところでの情報共有を期待していた。

－研修で取り上げた課題が良かったことに異論はないが、説明は焦点を欠き日本の新幹線のデータによる詳細な分析が含まれていなかった。講義の大部分は素人目線で語られ、高速鉄道のための人事活用を技術者の視点でとらえたり、高速鉄道駅で構造的に必要なものや線形の特徴から必要となるものなどインドの技術者が知っておくべきことがあまりなかった。新幹線の運行は俯瞰的に説明された。日本の新幹線の定時運行や無事故、無修繕、無摩耗、無破断をどうやって実現しているかについてもっと詳しく説明してもらえると期待していた。

### グループ 2【電力 E、車両 R、信通 S、事務 A】

・なし（11名：E4名、A4名、R3名）

－すべての研修項目に不要なものなどない。

・新幹線発展の歴史（1名：A1名）

－多くの講義で新幹線と JNR 時代からの変遷の歴史が説明されたが、示されたデータが古いものばかりであり参考にならない。データは直近のものを使用すべきである。(A)

・大宮駅視察（1名：S1名）

－改札口の配置と位置以外にはあまり役立つことが学べなかった。(S)

・大宮信号通信技術センター視察（1名：E1名）

－内容は OCC 訪問でほとんどカバーされていた。(S)

## 扱われなかったが、含むべき科目

〈Subject〉科目・〈Reason〉理由

### グループ 1【土木 C】

・日本における土木工事の品質管理（4名）

－MAHSR（インド新幹線）事業では大規模な土木工事が始まる予定であり日本の品質管理についての知識があった方が良い。

－上記項目は工事監督時における効果が大きい。

・MAHSR（インド新幹線）の建設に関連して設計を含む土木技術に特化した項目（5名）

－研修の 9 割が運行に関わる内容であったが、現時点で必要なのは建設関連の内容だ。土木のグループ

は品質、建設工事の安全、工事中の環境問題など土木工事に必要な事項の理解のためにもっと時間をさくべきだ。

ー基礎は構造物にとって不可欠の部分。土木技師にとって本部分の研修は不可欠。

・**高速鉄道駅の建築・施工要件、HSR 運行要件、HSR 線形設計、工事の最適空間計画の詳細、インド HSR プロジェクトに関する JICA の環境・社会的指針 (2名)**

ー上記科目の技術的な考察によりインド鉄道は、HSR 設計及び駅周辺計画に関する JICA 及び JIC の理念をより深く理解できるとともに、日本の HSR システムが達成している事故ゼロにつながる要因の理解に役立つ。必要となる運営費、最新の工事費に関するより詳細な説明があると良い。

・**新幹線が都市や日本全体に与えた影響 (1名)**

ーMAHSR (インド新幹線) の路線は交通インフラがあまり発達していない都市を通るので MAHSR (インド新幹線) の駅は都市の玄関となりビジネスの機会ができるだろう。インド高速鉄道公社が適切な規制を策定できるような日本の実例を学びたかった。

**グループ 2【電力 E、車両 R、信通 S、事務 A】**

・**SP,SSP,DSS,Ats, 送電線、車両製造会社の視察 (E3名)**

ー電力グループとしても以上のものを学ぶ必要がある。またトランスフォーマー、CI,トラクションモーター、エアコン設備なども電気系技術者にとっては重要である。(E)

ーNHSRCL 電力チームにとって有益な視察である。(E)

・**定期的なメンテナンス業務と研修の提供について (コアスタッフ研修) (A1名)**

ー高速鉄道公社への研修日程についての説明はあったが、コース内容詳細についての説明が欲しかった。またメンテナンス内容、その研修、についてフォローアップ研修、上級コースの研修などについての説明も欲しかった。(A)

・**関わる地域での財政、収益などの経済的影響 (A1名)**

ーすべての事業において関わる地域の財政、収益などは重要なポイントである。これらの科目を含めることでこの研修はもっと充実する。(A)

・**JICA の ODA ローン (A1名)**

ーODA 事業において事業がどう選ばれて財政支援がどう行われるのか、もっと情報が欲しかった。(A)

・**JR 東日本での広報活動について。(A1名)**

ーインド高速鉄道プロジェクトについて市民の考えを好意的なものにしていくことが重要である。JR 東日本から似たような経験を教えてもらうことは大いに参考になる。(A)

・**各チームの興味の対象に合わせた製造現場の視察を増やすとよい。(R1名)**

ー「見ることは学ぶこと」であり、実際に行程が見学できれば理解の程度は飛躍的に向上するから。(R)

・**車両装置の詳細の習熟。(R1名)**

ー高速鉄道は我々にとって新たな経験である。車両に関連するすべてのシステムやサブシステム、また装置に係わる技術面・機能面の仕様を知ることが必要。(R)

・**OCC の詳細な運用、OCC すべての機器室の見学、特に信号施設の詳細 (S2名)**

ー信号・通信業務に従事しているので、OCC と信号システムについて詳細説明があればより良かった。(S)

ーこれらのシステムの概要、レイアウト、設計、設置を学ぶことにより運用の実際と更新について理解することに役立つ (S)

・**電気設備が設置されている現場と変電所での電通試運転の現場。夜間行われる電気関係のメンテナンス現場の視察。(E2名)**

- 電気設備の電気を通した試運転とメンテナンスの深い知識を得るため。(E)
- 現場の仕事を深く理解するため。(E)

## パート 2：研修デザインについて/PART II Program Design

1. あなたもしくは所属組織が案件目標を達成する上で、プログラムのデザインは適切だと思いますか？  
(※プログラムのデザイン：プログラムの構成、バランス)

← 適切である		適切ではない →	
4	3	2	1
18	9	2	0

2. 研修期間は適切でしたか？

長い	適切	短い
1	20	8

3. 本研修の参加者人数は適切だと思いますか？

多い	適切	少ない
3	26	0

4. 本研修において研修参加者の経験から学ぶことができましたか？

← できた		できなかった →	
4	3	2	1
11	10	6	2

5. 視察や実習など直接的な経験を得る機会が十分ありましたか？

← 十分あった		なかった →	
4	3	2	1
8	17	4	0

6. 討議やワークショップなど、主体的に参加する機会が十分ありましたか？

← 十分あった		なかった →	
4	3	2	1
9	12	8	0

7. 講義の質は高く、理解しやすかったですか？

← 良かった		良くなかった →	
4	3	2	1
9	12	8	0

8. テキストや研修教材は満足するものでしたか？

← 満足した		満足していない →	
4	3	2	1
9	17	3	0

9. 本邦研修で得た日本の知識・経験は役立つと思いますか？

A	17	はい、業務に直接的に活用することができる。
B	8	直接的に活用することはできないが、業務に応用できる。
C	4	直接的に活用、応用することはできないが、自分自身の参考になる。
D	0	いいえ、全く役立たない。

10. 目標を達成するための適切なファシリテーション（講義内容の理解促進、AP等の作成にかかる助言等）を受けることができましたか？

← 満足した		満足していない →	
4	3	2	1
16	12	1	0

11. 研修監理員の通訳及び研修監理サービス（調整・手配）には満足しましたか？

	← 満足した				満足していない →
通訳	4	3	2	1	NA
	27	2	0	0	
調整業務	4	3	2	1	NA
	27	2	0	0	

12. 日本の社会的・文化的背景を理解できたと思いますか？

← 十分できた		できなかった →	
4	3	2	1
21	6	2	0

13. 宿泊施設に関する以下の項目について、満足であったかお答えください。

	← 満足した				満足していない →
JICA センターの設備	4	3	2	1	NA
	16	5	1	1	6
JICA センターの食事	4	3	2	1	NA
	15	4	3	1	6
JICA センターのサービス	4	3	2	1	NA
	17	3	2	1	6
ホテルの設備	4	3	2	1	NA
	17	5	1	0	6
ホテルのサービス	4	3	2	0	NA
	18	5	0	0	6

14. Q1～Q13 に関して、改善のための提言

グループ1【土木C】

【プログラム構成及び深度について】

・否定側のマークにはチェックを入れていないが、概して、特に JR 東日本の施設内では情報共有において渋りがちであると分かった。確かに有意義な情報を得られてはいるが、そう感じた。質問への答えは選

択制で、時間制限または科目との無関係性を理由にしている。多くの場所で写真を撮ることが許されない、物に触ることが許されないなど制限が多い点が強調されていたため、再考してほしい。

・もっと系統だった行程にするべきだ。JICA 東京センターから複数の視察先への移動で時間を浪費した。また、14 日間の研修科目の配列はあまり系統だっていなかった。例えばまず建設、次に軌道、そして車両というような順序はどうか。もっと良い科目を入れ、もっと最新のデータを入れて、最新の状況が分かるようにしてほしい。

・視察の大部分が短かった。現場で説明を聞いただけで現場そのものの見学がなかった。実際に現場を歩くことで講義の理解が深まっただろう。

・プログラムをもっと合理化すべき。JICA センターを起点とした移動を効率化し、現地での消費時間を増やす。14 日間にわたるプログラムの科目がランダムに設定されている。例えば最初は施工計画、次に軌道、車両など科目ごとに区切ると良い。より良い科目を取り入れ、より最新のデータを使って、最新の状況を把握できるようにしてほしい。

・現場見学の多くは概要だけで、現地での説明だけに留まっていた。多くの場合、実際の現場を歩いて通過するという設定がなく、机上の講義に関する理解を深めることができなかつた点の見直しが望まれる。

#### 【質疑応答・議論の時間の増加】

- ・講義の質問時間の不足、ディスカッションの時間を多く確保すべき。
- ・双方向型の講義、グループ・ディスカッションの枠組みを増やしてもらいたい。

#### 【配布資料・教材等の改善】

・テキストには 2008~2010 年以前の古いデータが使われており、その後のデータの追加が講義ではなかつた点、更新が望まれる。

#### 【JICA 東京/生活インフラの改善について】

・客室内のティーメーカー・ポットなど基本的な設備が JICA の宿泊施設には欠如または不足していた。さらに基本的なサニタリーグッズである歯磨き粉、歯ブラシでさえも補給がなかつた。必要のない部屋からの退出（チェックアウト）を強いられ、プログラム全体が多忙で、とても疲れるものだった。クロークルーム開放の時間管理が厳しく、また本研修員にはスポーツ・余暇活動の提供がなかつた。与えられたテレビには地域チャンネル、国際チャンネルの放送が含まれていなかった。最後に、食事のメニューはそれほど悪くはないものの、サンドウィッチ、バーガー、全粒粉パン、ピザなどビーガンの国際的慣行に基づいた複数の料理が含まれていなかった。

#### 【通訳・コーディネーション】

・研修監理員の通訳、調整業務はその人間性、知識、情報の伝達能力において秀でていた。今後も同様の研修監理員の継続を望む。

### グループ 2【電力 E、車両 R、信通 S、事務 A】

#### 【プログラム構成及び深度について】

- ・技術系の講義をもう少し増やしてほしい。(3名：S1名、R1名、E1名)
- ・視察時間が短いこともあった。変電所や架線の電気工事などの視察を増やしてほしい。図面なども提供してほしい。(E)

#### 【質疑応答・議論の時間の増加】

・大多数のプログラムは、質問をして理解を明確にするための時間や、その科目について意見交換をするための時間が充分になかつた。もっと直接的なディスカッションを適えてくれる場を提供してもらいたい。(9名：S2名、R1名、A4名、E2名)

#### 【配布資料・教材等の改善】

- ・データは新しいものを提供してほしい。(A)

・古いデータを最新に更新すべき。実務に関わる現場の人を交えた講義が必要。理論より実践的な研修が必要。専門分野の理論に関する教材が必要。(R)

・電力供給や架線に関する資料がもっと欲しい。図面なども提供してほしい。(E)

#### 【JICA 東京/生活インフラの改善について】

・一泊だけの移動のためにチェックアウトではなくトリップアウト扱いにしてもらえれば JICA 東京の宿泊はより良いものになったであろう。またクロークルームに預ける時間が非常に短い時間に制限されていたが、チェックアウトと同時に荷物を置いていければ良かった。(S)

・JICA 東京の宿泊施設は良かったが、コース中一泊のみ研修地を移動した際のチェックアウト扱いは見直されるべきだ。一泊のみの旅行については居室をそのまま連続して使えるようお願いしたい。(S)

### パート 3：日本での気づき・学びについて/ PART III Findings and Learnings

1~4. ( 必須 )：“日本での学びとその活用について”

1.研修を通じて学んだ知見の中で、自国の課題解決に貢献しうる知見(手法、業務・組織、制度、概念)、技術、技能を挙げてください。(知見)

2.なぜそれが有用であるか述べてください。(理由)

3.どのように自国に採用もしくは適用するか述べてください。また、採用もしくは適用において課題があれば記述してください。(方法・課題)

#### グループ 1【土木 C】

(知見)

・働く姿勢、時間の正確さ、安全性、清潔さ、仕事の質の高さ。(5名)

・サービスとシステム(4名)

・日本人の考え方。(3名)

・駅の設計の考え方と周辺地域の開発。(2名)

・建設技術と現場施設管理(2名)

・高速鉄道のスラブ軌道システム、統合列車運行のためのコスモス、列車信号制御における ATC と PRC(2名)

・インドは初めての高速鉄道をムンバイ・アーメダバード間で建設予定である。新幹線のインフラと運行の分離、設備(軌道、構造、駅、その他のビルや機器)、保線設備管理システム、各 JR の企業組織などはインドで初めての高速鉄道システムを始めるのに有用であろう。信頼性、環境負荷が低い、終端駅での 7 分の折返し時間、高い安全基準、非常に清潔であること、“一人は皆のために、皆は一つの目的のために”の考え方、コスモスの運行システム、ATS と ATC の設置、現場と現場外での研修制度はインドの高速鉄道の運行のために容易に活用できるだろう。(1名)

・MAHSR の施工に採用可能な技術・技能(2名)

(理由)

・質の良いサービスは乗客の満足を得るために欠かせずそのためには質の良いシステムが必要だ。質の良いシステムを実現しなくてはならない。

・「国民と共に皆のために発展する」という考え方。

・MAHSR の駅の設計と在来線との統合に有用である。周辺地域の建物との統合もインド新幹線の成功で重要な役割を果たすであろう。

・有効な建設技術があれば列車運行に必要な資源が不足していても克服できる。現場施設管理で工事期間と死亡事故を減らせる。



- ・インド鉄道で現在使用されているものに比べて、とてもユニークであり高速鉄道への移行と日本の水準まで引き上げるために有用だと思われる。インド鉄道の運行の質を改善するのに役立つかもしれない。
- ・高度な信頼性と定時性は顧客の信頼と満足度を向上させるだろう。乗客に提供される便利さと快適さは利用時間が短くてもより多くの顧客を引き付けるであろう。環境負荷が低いシステムは二酸化炭素削減目標に貢献するだろう。7分間の折返し時間で高い効率性と車両の最適な利用が達成されインドの高い輸送需要に対応できる。高い安全基準はインドにおける列車関連の事故を最大限になくすることができるだろう。インドの高速鉄道システム運行のために現場と現場外での研修制度を容易に取り入れられるだろう。
- ・高速列車事業の軌道構造、プラットフォーム、駅構造の施工に役立つ。
- ・効果的な時間管理によってサービスを改善できることを知った。
- ・新幹線の技術はインド鉄道にとって新しいものであり、日本の鉄道は同じ状態を維持するために、高い基準を設定しており、それが実務の中に見られる。
- ・サービスにおける姿勢は大きな変化をもたらすことができると思う。
- ・当該システムはインド鉄道（IR）にとっては特異で、即刻導入しIRのHSRの質・基準を日本で維持されているレベルに向上する。運行の質的向上にも役立つ。
- ・日本人の一貫した勤務は高速技術分野において世界一である。
- ・軌道建設技術、新幹線の走行に適用されている軌道構造を見学した。スラブ軌道利用によりあらゆることに変化をもたらされたと見ている。そうでなければ、軌道構造はインドで利用されているものと同じものであるはず。

#### （方法・課題）

- ・質の良いシステム達成には適切な研修と適切な技能の提供が必要だ。
- ・国民は国の発展にもっと関わるべきだ。
- ・日本の新幹線の例をそっくりそのままインドの新幹線（インド高速鉄道公社）に当てはめるには多くのハードルを克服する必要がある。日本は二国の夢の実現のためにインドの手をしっかりと握って支えて欲しい。
- ・甚大な課題の克服のためにインドの新幹線は日本の新幹線モデルの良い点を活用すべきである。
- ・インド国民は高速鉄道のシステムに馴染んでいない。車両や駅と周辺地域における安全管理を導入してインドにおける高速鉄道の国民による妨害を制御する必要がある。例えば、インドは人口が多く改札口にセンサー設置が必要であるし、車掌室には窓ではなく監視カメラを設置するべきだ。ドアが開いているときに電車が動き出す可能性はゼロにするべきだ。革新的な構造設計やコンクリートの品質基準を利用してさらなる経済的な設計を達成するための構造的な荷重の最適値を検討すべきだ。
- ・インドではさまざまな地下鉄事業者が似たようなインフラや運行システムを採用しているので、新幹線システムの手法、サービスと考え方はインドで高速鉄道のために容易に導入可能だろう。踏切のない軌道構造のシステムや新幹線専用の保守計画、ATSとATC、統合運行指令、厳格な監視と保守計画は既に地下鉄システムに取り入れられており高速鉄道でも容易に導入可能だろう。
- ・特に駅の張り出し式プラットフォームは、事故時において作業員・旅客の安全に役立つ。
- ・時間管理、清潔及び安全性に関するシステムはインドで適用可能。
- ・日本の鉄道で採られている、あらゆるグッドプラクティスを適用し、顧客満足度を向上する。
- ・7分の奇跡をインドでも採用できる。
- ・インド人はHSRシステムに慣れていない。車両・駅構内において同様の安全特性を幾つか導入し、インドのHSR運行における公的な中断を抑制する。例えば、インドは人口が多いため、ゲート及び車掌室の窓に取り付けているセンサーをカメラ映像に切り替え、列車が動いているときにドアが開いていること

がないようにする。より経済的な設計を達成するための構造的荷重の最適化を考慮し、革新的な構造設計及びコンクリートの質的基準活用する必要がある。

- ・誠実さ、時間厳守、忍耐、静粛などが学ぶべきところであり、所属する組織にも導入する必要がある。
- ・完成された新幹線技術の導入が進行している。工事も進行している。

## **グループ 2【電力 E、車両 R、信通 S、事務 A】**

### **【電力 E】**

#### **(知見)**

- ・ヴァドーダラーにできる研修センター建設計画は素晴らしいと思った。日本で学んだ建設計画はインドでの建設のさらなる発展のためにも役に立つ。
- ・安全性、定時性、規律。
- ・人口密集地での TSS 変電所建設は大変参考になった。インドでの高速鉄道にも必要なら応用できる。

#### **(理由)**

- ・高速鉄道技術は新しい分野であり、それに必要なものはすべてインドでも必要となる。
- ・インドでの鉄道運輸分野に変化をもたらす。
- ・新幹線技術は新しいもので、インドでも日本の支援で同じように導入される。

#### **(方法・課題)**

- ・日本で学びそれをインドに導入する。
- ・モチベーションを上げることにより達成を目指す。
- ・両国間で知識と文化を共有し、同じようにインドに新幹線技術を導入する。

### **【車両 R、信通 S】**

#### **(知見)**

- ・手法。日本人は概して非常に系統的であり、秩序に基づき訓練された通りに、また要求にかなうように緻密に確実に仕事をこなすことが分かった。(R)
- ・高レベルの鉄道サービス、安全への取り組み、乗客の快適性、システムの統合と発展、インフラ成長過程から得た知見。(R)
- ・安全、定時性、仕事に対する精度の高さ。(R)
- ・手法と考え方 (S)

#### **(理由)**

- ・仕事は常にどのレベルにおいても要求通りに設定期限に合わせて正確に完成させる必要があり、これはどの組織にあってもスムーズに機能するために必須。得た知識はその上で大変有効である。特に、(仕業検査のような) 毎回完璧さを求められる仕事が必要な鉄道業においてはこれが当てはまる。(R)
- ・上記に述べた技術やスキルが自国に存在しないというわけではないが、鉄道サービスにおいて世界のトップクラスになれるようこれらのスキルをさらに向上させていく必要がある。(R)
- ・日本人は継続的に努めてきたことで高速鉄道技術の世界トップの座を得た。(R)
- ・いくつかの手法は、システムに高度な機能が組み込まれていないとき、安全性を向上させるのに役立ち、機器を簡易化すべしとの考え方はコストと人員を削減するのに大変有益である。(S)
- ・文化的発展と共に適正かつ安全な結果につながる。(S)

#### **(方法・課題)**

- ・系統的であるという慣習はインドの組織に既に存在しているが、職員のモチベーションを向上させることでこの慣習を継続し、またさらに改善させることにつながる。(R)
- ・上記の技術は採用・適用するにおいて決して難しいということはない。ただ前向きに勤勉であること、

そして新たな技術を受け入れるオープンさがあればよい。(R)

- ・誠実であること、そして時間厳守。我々の組織にはこの2つを学び採用する必要がある。(R)
- ・インドではほぼ同じ信号・通信システムを導入しようとしており、マイナーな修正が行われた上で同じ機能が直接適用される可能性がある。機密事項であるとされ実際のまた具体的な情報が欠如しているので、システムを理解し、疑問点を明らかにするために非常に多くの障害が生じている。(S)
- ・適用は複数のレベルで行われる必要がある。(S)

**【事務 A】**

**(知見)**

- ・日本語の知識は必須である。(1名)
- ・講義や視察で得た知識はすべて HSR 実施において大いに役立つと思う。(1名)
- ・管理された組織、世界に認められた最新の素晴らしい技術 (1名)
- ・新幹線のシステムはインド導入の際にいくらかの変更が必要である。しかし組織、研修そしてお客様サービスなどはインドに導入できる。(1名)
- ・列車から別の輸送手段への乗り継ぎやビジネスセンターとしての駅開発について。(1名)

**(理由)**

- ・日本側カウンターパートと話し合い、理解しあうには日本語や文化についての知識が必要である。(1名)
- ・新幹線やその軌道、車両製造工場など初めて見た。現場で得た知識はこの事業遂行に役に立つ。(1名)
- ・技術的に発展するには時間がかかり、きちんと管理された組織なしにはやり遂げられない。(1名)
- ・これらの事柄は既にインドでもやっているが、高速鉄道においては日本のやり方の方がいいと思う。(1名)
- ・インドでは駅周辺に使われていないスペースがある。これらの地域をビジネスセンターとして開発することで多くの利益が生まれる。(1名)

**(方法・課題)**

- ・両国では文化、経済、地理的な違いがあるが、それを考慮して正しいものを導入することはインド側の意識や考え方を変えていくために重要である。(1名)
- ・きちんと導入すれば HSR 技術は大変有益である。また時間の節約にもなる。(1名)
- ・知識を高いレベルを保ったまま導入するにはその分野の研修や訓練が必要だと思う。(1名)
- ・研修と組織については微調整だけで導入できる。規則や手続きなどはインド特有の状況を考慮して計画するべきである。(1名)

**4. 日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や日本の特性にマークをしてください。**

親切	13	細部までこだわる	8
時間に正確	21	文化と歴史が素晴らしい	11
規律を守る	20	食事がおいしい	6
勤労・勤勉	18	清潔・きれい	19
礼儀正しい	14	治安が良い	17
物静かである	13	交通渋滞が激しい	0
働きすぎである	6	自然豊か	9
その他 (-)	0	-	

## 具体的なエピソード、その他の特徴・特性

### 【規律正しさ・礼儀正しさ・時間に正確・清潔さ】

- ・与えられた仕事を義務づけられた以上に要求のレベルを超えてこなす。制約にも関わらず時間を厳守する。清潔志向が高い（5名）
- ・すべての計画、場所と時間の設定についての研修監理は非常に良かった。すべての関連組織間の調整が微に入り細に入り行われたと分かる。
- ・オフィスにおける規律正しいマナー
- ・些細なことにも誠実に全力で向き合う。

### 【親切・優しさ】

- ・どんな質問にも丁寧に対応してくれる。
- ・常に笑顔で接してくれる。

### 【日本の印象】

- ・形式的である。
- ・清潔
- ・日本人の生活はシンプルでありユーモアがある。

### 【文化・その他】

- ・外国人に対して文化交流に適応している。
- ・母国語を大事にして多言語も尊重する。

## 5. (任意)：“日本での経験について”

### グループ1【土木C】

- ・日本人は仕事を優先し、かつ規律正しく、仕事への献身が顕著である。周辺を整理し、清潔にして、衛生的な生活を送っている。
- ・日本の識字率は100%。日本人の大部分は品行方正であり、正直で勤労である。日本は真の国家主義を有し、すべてが整然と機能している。インドは識字率を上げ、一般倫理を向上するとともに人口成長率を抑制する必要がある。清潔、時間厳守に関する意識付けを施し、厳しい規範・方法を採用・設定することによって業務を改善する。研究開発にはかなりの額の資金が費やされており、各分野で技術・経済的解決策が見いだされ、最新の技術解決策をもって国の発展に貢献している。インドの労働人口は巨大で、社会・経済・技術開発面の成長率を高め、素早い経済成長により先進国の仲間入りをしたい。
- ・日本人は知的で、体力があり、礼儀正しく、健全であることで知られており、同様に慣行できれば、インドも世界のリーダーになることができる。在日中、職員の方々の規律正しさに感銘を受けた。日本人は清潔であることを重要視し、清潔さを保つための努力を惜しまない。清潔な街の通りは気持ちが良い。
- ・日本人が日頃から厳格に慣行している時間厳守の真髓が最も印象的であった。あらゆる問題に対してシステム指向のアプローチを取り入れ、ニーズがあっても計画を変更しようとする意思が強く、複数の場面で困惑した。日本人のためらいがちで控え目なところは称賛に値するものの、時には過敏となることが複数の事柄で見られ、そのシステム自体が摩擦を生む事態に陥った。
- ・日本人は質問に対して丁寧に答える。質問するときも同じく丁寧。
- ・店舗を多く訪問したが、手に何を持っているのか、または入り口で持っているものを出すように言われたことはない。つまり、万引きをする人がいないということである。
- ・人間を考慮に入れ、安全・安心が優先されている。
- ・清潔が最優先されている。街路に紙一枚落ちているのを見たことがない。
- ・知的というよりも、業務に対してはより誠実であり一所懸命である。

## グループ2【電力 E、車両 R、信通 S、事務 A】

・日本の労働文化に触れながら日本人と一緒に行動できたことは大変貴重な経験であった。両国間では多くの違いがあるが、日本の仕事の仕方は大変印象深かった。それらは素晴らしいことであり、インド発展のために否定すべきものではないと思う。我々も日本人の勤勉さやゴールへ向かって進んでいこうという気概などに倣ってゴールへ向かいインドの誇りとなりたい。(A)

・日本人の時間管理能力は素晴らしいと思う。自分たちの仕事と責任について常に考えている。そして謙虚で穏やかである。(A)

・インドでは人的資源や労働環境などさまざまな分野で制約が多い。高速鉄道導入は大きな変革となる。そして多くの問題や機会が生まれると思う。自然災害、事故への対応のため日本では高い安全基準を設定している。「Better than yesterday & better than today」の言葉と共に新幹線がインドに登場する前にインドでも安全、お客様サービスの改善などを考える必要がある。高速鉄道のために新しい規則、手続きなどを設定する必要もある。(A)

・日本人はとても丁寧で、道を尋ねたりしたときなど、どんな質問にも答えてくれる。いろんな店にいったが、ハンドバッグに何が入っているか聞かれたことも、入口で持ち物の提出を求められることもなかった。つまり、日本では料金を支払わずに品物を盗むことがないということである。夜9時半にスカイツリーでIDカードを紛失したのだが、翌日朝10時には、警察にIDカードが届いているとセンターに連絡が入った。警察の対応の早さには驚いた。「おはようございます」「すみません」「じゃあまた」「ありがとうございます」といった言葉を誰もが適切なきに使っている。安全や人類に対する気遣いが優先事項となっている。国や他人のことをまず考え、自分のことは後回しにする態度。清潔が最優先されており、路上に紙がちらかっているのを見たことがない。心を込めて勤勉な態度で仕事をする。(R)

・国間には文化的相違によりいくつかの問題点があった。研修中にJRの勤労文化について説明されたので、我々ではできるだけそれに従うよう努力した。しかし、長い人生の中での習慣や文化的な活動は血のレベルに達するほどであり一時的にはできても、それらを変えることは大変難しいということは日本側に理解されるべきである。

・新幹線の技術開発は並外れたもので、世界中がこれに注目しており、必要なものとして取り入れようと努力している。そのためには、透明性と情報共有を確実にすることが両国の将来にとって必要であろう。

・日本の素晴らしいトイレを経験したことを記さずこのエッセイを完結することができなかったことを正直に述べたい。(S)

・この短い日本滞在では、新幹線システムについての研修に参加でき、まことに素晴らしく有益な経験をした。技術的な学びとともに、日本の「安全文化」を見出すことができた。日本人と旅行者が共有する「安全である」という感覚は模範的である。この感覚と自信は、民間企業と日本政府の確固とした「意志と行動力」があって初めて身につけられるものである。また、学ぶことに対する徹底した取り組みにより日本人がさまざまな分野でもナンバーワンになったことは賞賛に値する。高速鉄道(新幹線)の事例研究は「決して諦めない態度」と「やる以上完璧に」の精神の実例である。(S)

・日本滞在は信じられないほど素晴らしい経験であった。

・①霊的なものを感じる文化。②自然を大切にしている。③沈黙考型で小さなことでも偉大なものにする。(E)

・東京は清潔な街で汚水やごみなどを見ることがなかった。下水システムも発達していることが分かる。(E)

※あなたの回答はJICAが事業改善のために使用させていただきます。ご協力ありがとうございます。

平成 30年 10月 15日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本昌子

殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
東 充男

署名 東 充男

### 研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

#### 記

#### I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 東 充男 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「新幹線の特徴-高速鉄道の発展の歴史と特徴」
3. 日時 平成30年 10月16日 火曜日 9:30 ~ 12:00
4. 場所

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法
- |      |   |                             |                                  |
|------|---|-----------------------------|----------------------------------|
| 使用言語 | <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 | <input type="checkbox"/> 英語 | <input type="checkbox"/> その他 ( ) |
|------|---|-----------------------------|----------------------------------|

#### II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「Features of Japanese Railroads and High-speed-rail Our challenge for safety and customer satisfaction」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出×切 平成30年10月4日 ×切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素
- |   |   |   |  |                             |
|---|---|---|--|-----------------------------|
| テキスト<br>(パワーポイント含む)   | (1) 新規・改訂の別   | <input type="checkbox"/> 増刷   | <input checked="" type="checkbox"/> 改訂 | <input type="checkbox"/> 新規 |
|   | (2) 使用言語  | <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( ) |  |                             |
|   | (3) 翻訳後原稿チェック<br>※ご自身での校正   | <input type="checkbox"/> 要  | <input checked="" type="checkbox"/> 不要 |                             |
|   | (4) 予定原稿枚数  | ( 50 ) 枚  |  |                             |
|   | (5) 原稿の構成要素   | <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作  |  |                             |
| <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む                                     |   |   |  |                             |
| <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える)<br>(文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) |   |   |  |                             |
| その他   | <input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし |   |  |                             |

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更

(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化しJICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 31年 1月 7日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 東 充男

署名 東 充男

### 研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

#### 記

#### I. 講義内容:

- |        |                        |                   |
|--------|------------------------|-------------------|
| 1. 講師  | 氏名: 東 充男               | 所属: 日本コンサルタンツ株式会社 |
| 2. 講義名 | 「新幹線の特徴、高速鉄道の発展の歴史と特徴」 |                   |
| 3. 日時  | 平成 31年 1月15日 火曜日       | 9:30 ~ 12:30      |
| 4. 場所  | 東京国際センター(JICA東京)       |                   |

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

- |         |      |   |                             |                                  |
|---------|------|---|-----------------------------|----------------------------------|
| 5. 講義方法 | 使用言語 | <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 | <input type="checkbox"/> 英語 | <input type="checkbox"/> その他 ( ) |
|---------|------|---|-----------------------------|----------------------------------|

#### II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

- |           |                       |    |
|-----------|-----------------------|----|
| 1. 教材テーマ  | 「SHINKANSEN 2019.1.8」 |    |
| 2. 配布部数   | 40 部                  |    |
| 3. 原稿提出✓切 | 平成30年12月20日           | ✓切 |

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

- |  |   |   |
|--|---|---|
| 4. 教材の種類・要素  |   |   |
| テキスト<br>(パワーポイント含む)  | (1) 新規・改訂の別   | <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規            |
|  | (2) 使用言語  | <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( ) |
|  | (3) 翻訳後原稿チェック<br>※ご自身での校正   | <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要   |
|  | (4) 予定原稿枚数  | ( 20 ) 枚  |
|  | (5) 原稿の構成要素   | <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作  |
| <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む  |   |   |
| <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える)<br>(文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等)<br><input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし<br>(許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと) |   |   |
| その他  | <input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし |   |



## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸甚です。

許諾いただけない内容に☐チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/>	d) 電子データ化しJICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著作物)を利用している場合には、第三者(原著作物)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 31年 1 月 10 日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 渡邊 榮美男

署名 渡邊 榮美男

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の  
 当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 渡邊 榮美男 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「 鉄道マンに期待すること 」
3. 日時 平成31年 1月15日 火曜日 13:40 ~ 15:40
4. 場所 東京国際センター(JICA東京)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 鉄道マンへの期待 」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出 ✓切 平成30年12月20日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷	<input checked="" type="checkbox"/> 改訂	<input type="checkbox"/> 新規
テキスト (パワーポイント含む)	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要	<input checked="" type="checkbox"/> 不要	
	(4) 予定原稿枚数	( 25 ) 枚		
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作		
		<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む		
その他	<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等)			
	<input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)			
		<input type="checkbox"/> あり( )	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

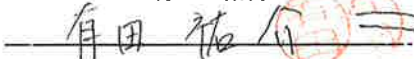
- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成30年 12月21日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都千代田区霞が関2-1-3

氏名 有田 祐介

署名 

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 有田 祐介 所属: 国土交通省鉄道局国際鉄道技術管理室 課長補佐
2. 講義名 「 新幹線整備に関する諸制度など 」
3. 日時 平成31年 1月15日 火曜日 16:30 ~ 17:30
4. 場所 JICA東京

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語	<input checked="" type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	------------------------------	--	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Systems related to Shinkansen construction 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 〳切 平成30年12月25日 火曜日 〳切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input checked="" type="checkbox"/> 改訂 <input type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 37 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input type="checkbox"/> なし

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸甚です。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著作物)を利用している場合には、第三者(原著作物)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 31年 1月 7日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本昌子

殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
新国際ビル4階氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
松本 壽夫署名 松本 壽夫

## 研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

## 記

## I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 松本 壽夫 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「 日本の新幹線システム 」
3. 日時 平成 31年 1月16日 水曜日 9:00 ~ 11:00
4. 場所 東京国際センター(JICA東京)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法 

	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
--	------	---	-----------------------------	----------------------------------

## II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Shinkansen System in Japan 」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出×切 平成30年12月20日 ×切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素
- |                     |   |  |  |                                 |
|---------------------|---|--|--|---------------------------------|
| テキスト<br>(パワーポイント含む) | (1) 新規・改訂の別   | <input type="checkbox"/> 増刷  | <input checked="" type="checkbox"/> 改訂 | <input type="checkbox"/> 新規     |
|                     | (2) 使用言語  | <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳)   | <input checked="" type="checkbox"/> 英語 | <input type="checkbox"/> その他( ) |
|                     | (3) 翻訳後原稿チェック<br>※ご自身での校正   | <input type="checkbox"/> 要   | <input checked="" type="checkbox"/> 不要 |                                 |
|                     | (4) 予定原稿枚数  | ( 46 ) 枚   |  |                                 |
|                     | (5) 原稿の構成要素   | <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作<br><input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む<br><input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える)<br>(文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等)<br><input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし<br>(許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと) |  |                                 |
| その他                 | <input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし |  |  |                                 |

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1) 複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けると幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化しJICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著作物)を利用している場合には、第三者(原著作物)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 31年 1月 7日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 東 充男

署名 東 充男

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 東 充男 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「高速鉄道における交通結節点の整備」
3. 日時 平成 31年 1月16日 水曜日 11:05 ~ 12:20
4. 場所 東京国際センター(JICA東京)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「Station Developments in Metropolitan Area」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出✓切 平成30年12月20日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input checked="" type="checkbox"/> 改訂 <input type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 36 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作
<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む		
<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等)		
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	



## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化しJICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成30年 10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木2-2-2

氏名 高安 洋

署名 高安 洋

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 新井山 幸宏 所属: 東日本旅客鉄道株式会社 上野駅
2. 講義名 「 上野駅紹介 」
3. 日時 平成22年 10月24日 水曜日 12:00 ~ 14:00
4. 場所 上野駅

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法 使用言語 日本語 英語 その他 ( )

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 上野駅紹介 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出✓切 平成30年10月4日 木曜日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 29 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作
<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む		
<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)		
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成30年 10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木2-2-2

氏名 高安 洋

署名 高安 洋

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 大島 和幸 所属: 東日本旅客鉄道株式会社 大宮駅 内勤総括助役
2. 講義名 「 大宮駅職場紹介 」
3. 日時 平成22年 10月17日 水曜日 15:00 ~ 17:00
4. 場所 JR大宮駅

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 大宮駅職場紹介 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 ✓切 平成30年10月4日 木曜日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成30年 10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 〒961-0828 福島県白河市十三原道下  
1-1 JR東日本総合研修センター内

氏名 星野堪児  
署名 星野 堪児

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 星野堪児 株式会社JR東日本パーソナルサービス 所属: 総合研修センター事業本部 副本部長
2. 講義名 「 新幹線の安全マネジメント 」
3. 日時 平成22年 10月19日 金曜日 14:25 ~ 16:55
4. 場所 JR東日本総合研修センター

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法 使用言語 日本語 英語 その他 ( )

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 JR東日本の安全の取組み 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 〆切 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語(翻訳要) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 14 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複製作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著作物)を利用している場合には、第三者(原著作物)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成30年10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木2-2-2  
 氏名 高安 洋  
 署名 高安 洋

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 小田 和美 所属: 東日本旅客鉄道株式会社 設備部 課長
2. 講義名 「日本の設備メンテナンスについて」
3. 日時 平成30年 10月22日 月曜日 10:00 ~ 11:30
4. 場所 JR東日本本社

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「日本の設備メンテナンスについて」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出×切 平成30年10月4日 木曜日 ×切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 32 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし



Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けると幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	


(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本 昌子 殿

千葉県成田市新泉9-1  
 住所 鉄建建設株式会社 建設技術総合センター  
 氏名 熊井和雄  
 署名 常務執行役員 熊井和雄



研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 高橋 隆 所属: 鉄建建設(株)成田研修センター
2. 講義名 「 鉄道施設の視認 」
3. 日時 平成30年 10月22日 月曜日 14:00 ~ 16:30
4. 場所 鉄建建設株式会社 成田研修センター

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 鉄道施設の視認 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語(翻訳版あり) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

**許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。**

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

- 1. 教材テーマ 「 Plan view of Railway Facilities 」
- 2. 配布部数 20 部
- 3. 原稿提出〆切 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に〆印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

- (1) 複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸いです。

**許諾いただけない内容に〆チェックをお付けください。**

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 TEKKEN CORPORATION CORPORATE GUIDE 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出  切 平成30年10月4日 木曜日  切

※ 該当する内容に  印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素																															
テキスト (パワーポイント含む)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">(1) 新規・改訂の別</td> <td><input type="checkbox"/> 増刷</td> <td><input type="checkbox"/> 改訂</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 新規</td> </tr> <tr> <td>(2) 使用言語</td> <td colspan="3"><input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )</td> </tr> <tr> <td>(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正</td> <td><input type="checkbox"/> 要</td> <td colspan="2"><input checked="" type="checkbox"/> 不要</td> </tr> <tr> <td>(4) 予定原稿枚数</td> <td colspan="3">〈 19 〉 枚</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">(5) 原稿の構成要素</td> <td colspan="3"><input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作</td> </tr> <tr> <td colspan="3"><input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える)                      (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等)  <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし                      (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)                 </td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td colspan="3"><input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし</td> </tr> </table>	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷	<input type="checkbox"/> 改訂	<input checked="" type="checkbox"/> 新規	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )			(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要	<input checked="" type="checkbox"/> 不要		(4) 予定原稿枚数	〈 19 〉 枚			(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作			<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む			<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)			その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし		
(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷	<input type="checkbox"/> 改訂	<input checked="" type="checkbox"/> 新規																												
(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )																														
(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要	<input checked="" type="checkbox"/> 不要																													
(4) 予定原稿枚数	〈 19 〉 枚																														
(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作																														
	<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む																														
	<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)																														
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし																														

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

- (1) 複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸甚です。

**許諾いただけない内容に  チェックをお付けください。**

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)	
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)	
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用	
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布	
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)	
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)	
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)	
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載	
(3) 一般への公開	
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧	
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布	
(4) 特記事項	

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

平成30年 11月22日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本 昌子 殿

千葉県成田市新泉9-1  
住所 鉄建建設株式会社 建設技術総合センター  
氏名 取締役 熊井和雄  
署名 取務所 役員長



研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 高橋 隆 所属: 鉄建建設成田研修センター
2. 講義名 「 鉄道施設の視認 」
3. 日時 平成30年 12月19日 水曜日 10:00 ~ 12:10
4. 場所 鉄建建設株式会社 成田研修センター

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 鉄道施設の視認 」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出 平成30年11月29日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input checked="" type="checkbox"/> 改訂 <input type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える)(文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

### Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

#### 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**禮儀実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更

(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

#### 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

**許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。**

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	

**(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。**

#### 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作物)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号  
株式会社京三製作所

氏名 大園 健介  
署名 大園 健介

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 白鳥圭太 (Keita Shiratori) 信号事業部第3技術部 課長 所属: (Manager 3rd Engineering Dept., Railway Signal Div)
2. 講義名 「座間工場で取り扱っている鉄道信号システムの紹介」
3. 日時 平成31年 1月18日 木曜日 16:00 ~ 16:30
4. 場所 京三製作所 座間工場会議室

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法 使用言語 日本語 英語 その他 ( )

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ (株)京三製作所 座間工場で取り扱っている鉄道信号システムの紹介
2. 配布部数 15 部
3. 原稿提出 〆切 平成31年1月7日 月曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他(一部要翻訳)
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 25 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input type="checkbox"/> a) すべて創作 <input checked="" type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	



## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

- (1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

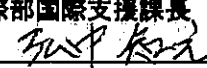
## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 30年 12月 25日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事  
 岸本昌子

殿

住所 〒231-8315  
 神奈川県横浜市中区本町6-50-1  
 独立行政法人  
 鉄道建設・運輸施設整備支援機構  
 氏名 国際部国際支援課長 弘中知之  
 署名 

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: #REF!

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の  
 当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

講師 氏名: 弘中知之 徳富恭彦 所属: 国際部 国際支援課長 九州新幹線建設局 武雄鉄道建設所長  
 2. 講義名 「 新幹線工事現場(武雄) 概要説明 」  
 3. 日時 平成30年 1月22日 火曜日 10:30 ~ 11:00  
 4. 場所

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ Overview of Kyushu Shinkansen Construction: Between Takeo- Onsen and Nagasaki)  
 2. 配布部数 50 部  
 3. 原稿提出×切 平成30年12月25日 火曜日 ×切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他(一部要翻訳)
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 (2) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり ( ) <input type="checkbox"/> なし

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

## (1) 研修員による帰国後の利用

a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)

b) 翻訳(現地語或いは他言語)

c) 研修員が作成する報告書等への一部利用

d) 電子データ化し、研修員に配布

## (2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用

a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)

b) 翻訳(現地語或いは他言語)

c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)

d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載

## (3) 一般への公開

a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧

b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布

## (4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。

2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。

3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。

4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。

5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。

6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)作成:

1. 教材テーマ 「Construction Overview by Takeo Railway Construction Site Office」
2. 配布部数 50 部
3. 原稿提出〆切 平成 30年 12月 25日(火)〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 4 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書,複製,写真,イラスト,地図,図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input type="checkbox"/> なし

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

**許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。**

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)作成:

1. 教材テーマ 「Kyushu Shinkansen Track Construction West Kyushu Route Takeo-Onsen to Nagas
2. 配布部数 50 部
3. 原稿提出〆切 平成 30年 12月 25日(火)〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 5 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作
<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む		
<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書,複製,写真,イラスト,地図,図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)		
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input type="checkbox"/> なし	

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**意義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

(1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

**許諾いただけない内容に✓チェックをお付けください。**

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	

平成30年 10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木2-2-2

氏名 高安 洋

署名 高安 洋

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 刀禰 秀明 所属: 東日本旅客鉄道株式会社 大宮新幹線電力技術センター
2. 講義名 「 Shin-Omiya Substation: Facility Overview Presentation Material 」
3. 日時 平成22年 10月24日 水曜日 9:30 ~ 10:30
4. 場所 新大宮変電所

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Shin-Omiya Substation: Facility Overview Presentation Material 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他		<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸甚です。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成30年 10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木2-2-2

氏名 高安 洋

署名 高安 洋

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 渡辺 哲史 所属: 東日本旅客鉄道株式会社  
大宮信号通信技術センター
2. 講義名 「 East Japan Railway Company Summary of Electric department 」
3. 日時 平成22年 10月24日 水曜日 15:40 ~ 16:40
4. 場所 大宮信号通信技術センター

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 East Japan Railway Company Summary of Electric department 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 平成30年10月4日 木曜日 切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 8 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	



## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

- (1) 複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☐チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

- 1. 教材テーマ 「 大宮信号通信技術センター① 」
- 2. 配布部数 20 部
- 3. 原稿提出 〆切 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に〆印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1) 複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸甚です。

許諾いただけない内容に〆チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

- 1. 教材テーマ 「 Omiya Signal Communication Technology Center: Shinkansen Operations」
- 2. 配布部数 20 部
- 3. 原稿提出 〆切 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に〆印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1) 複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に〆チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

- 1. 教材テーマ 「Manual for Responding to Signal Communication Equipment Failure」
- 2. 配布部数 20部
- 3. 原稿提出 平成30年10月4日 木曜日 切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 4 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けずと幸甚です。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

- 1. 教材テーマ 「 Recovery System Chart (A Rank) 」
- 2. 配布部数 20 部
- 3. 原稿提出 〆切 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に〆印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他(    )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	(    2    ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他		<input type="checkbox"/> あり(    ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1) 複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
  - (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
  - (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)
- ※注: 通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

平成30年 10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木2-2-2

氏名 高安 洋

署名 高安 洋

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 佐藤 芳弘 所属: 仙台新幹線保線技術センター 所長
2. 講義名 「 仙台新幹線保線技術センターの概要 」
3. 日時 平成22年 10月23日 火曜日 14:00 ~ 16:00
4. 場所 新幹線保線技術センター

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 仙台新幹線保線技術センターの概要 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 21 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他		<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1) 複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 30年 10 月 15 日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本昌子

殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
渡邊 榮美男

署名 渡邊 榮美男

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 渡邊 榮美男 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「 コアスタッフ研修の概要 」
3. 日時 平成30年 10月25日 火曜日 9:00 ~ 10:30
4. 場所 東京国際センター(JICA東京)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Core Staff Training for NHSRCL 」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出 ✓切 平成30年10月4日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input checked="" type="checkbox"/> 改訂 <input type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 13 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし



## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1) 複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸いです。

許諾いただけない内容に☐チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 30年 10月 15日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 東 充男

署名 東 充男

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 東 充男 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「サービス改善」
3. 日時 平成30年 10月25日 木曜日 10:45 ~ 12:00
4. 場所 東京国際センター(JICA)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「Service Quality at JR East」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出✓切 平成30年10月4日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 55 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作
<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む		
<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等)		
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/>	d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/>	c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/>	d) 電子データ化しJICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開	
<input checked="" type="checkbox"/>	a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/>	b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項	

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 31年 1 月 22 日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本昌子

殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
渡邊 榮美男

署名



### 研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

#### 記

#### I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 渡邊 榮美男 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「 コアスタッフ研修の概要 」
3. 日時 平成31年 1月23日 水曜日 10:20 ~ 11:50
4. 場所 日本コンサルタンツ株式会社 本社会議室

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法
- |      |   |                             |                                  |
|------|---|-----------------------------|----------------------------------|
| 使用言語 | <input checked="" type="checkbox"/> 日本語 | <input type="checkbox"/> 英語 | <input type="checkbox"/> その他 ( ) |
|------|---|-----------------------------|----------------------------------|

#### II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Human Resources Outline of JR-East 」
2. 配布部数 5 部
3. 原稿提出 ✕ 切 平成30年12月20日 ✕ 切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素
- |   |   |   |                             |  |
|---|---|---|-----------------------------|--|
| テキスト<br>(パワーポイント含む)   | (1) 新規・改訂の別   | <input type="checkbox"/> 増刷   | <input type="checkbox"/> 改訂 | <input checked="" type="checkbox"/> 新規 |
|   | (2) 使用言語  | <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( ) |                             |  |
|   | (3) 翻訳後原稿チェック<br>※ご自身での校正   | <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要   |                             |  |
|   | (4) 予定原稿枚数  | ( 7 ) 枚   |                             |  |
|   | (5) 原稿の構成要素   | <input type="checkbox"/> a) すべて創作   |                             |  |
| <input checked="" type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む                          |   |   |                             |  |
| <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える)<br>(文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) |   |   |                             |  |
| その他   | <input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし |   |                             |  |

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☐チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。

2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。

3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。

4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著作物)を利用している場合には、第三者(原著作物)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。

5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。

6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 30年 10 月 15 日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 渡邊 榮美男

署名 渡邊 榮美男

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の  
 当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 渡邊 榮美男 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「 JR東日本の人事制度・福利厚生 」
3. 日時 平成30年 10月25日 木曜日 13:00 ~ 14:30
4. 場所 東京国際センター(JICA東京)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Health&Welfare Benefits of JR East 」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出✓切 平成30年10月4日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 a <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 24 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作
<input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む		
<input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等)		
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	

Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

(1)複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)

(2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)

(3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更

(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けると幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

## 2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

## II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Human Resources Outline 」
2. 配布部数 40 部
3. 原稿提出 平成30年10月4日 木曜日 〆切

※ 該当する内容に〆印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input checked="" type="checkbox"/> 改訂 <input type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 19 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

## III. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1) 複製/配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3) (1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に〆チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)/配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。





平成30年 10月4日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木2-2-2

氏名 高安 洋

署名 高安 洋

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 森田 洋介 所属: 東日本旅客鉄道株式会社 国際事業本部
2. 講義名 「Signal Inspection Device of E926 Shinkansen's Electric and Track Equipment Inspection Car」
3. 日時 平成22年 10月25日 木曜日 15:40 ~ 16:40
4. 場所 East-i添乗

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ Signal Inspection Device of E926 Shinkansen's Electric and Track Equipment Inspection Car
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 ✓切 平成30年10月4日 木曜日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 10 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書、複製、写真、イラスト、地図、図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input type="checkbox"/> なし

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。

- (1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)  
 (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)  
 (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成30年 12月25日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本 昌子 殿

住所 東京都渋谷区代々木二丁目2番2号

氏名 小島 康平

署名 小島 康平

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省・高速鉄道公社職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 酒井 正人 所属: 東日本旅客鉄道株式会社 仙台新幹線運輸区 所長
2. 講義名 「 運輸区概要講義 」
3. 日時 平成31年 1月24日 木曜日 14:32 ~ 15:05
4. 場所 仙台新幹線運輸区

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 仙幹輸概況 」
2. 配布部数 20 部
3. 原稿提出 〆切 平成30年12月25日 火曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語(翻訳済) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 1 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

- (1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
  - (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
  - (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)
- ※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸甚です。

許諾いただけない内容にチェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

2作目以降の教材(著作物)に係る利用許諾書

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

- 1. 教材テーマ 「 インド鉄道への取り組み紹介 」
- 2. 配布部数 20 部
- 3. 原稿提出 〆切 平成30年12月25日 火曜日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素	
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別 <input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語(翻訳済) <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他(    )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正 <input checked="" type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数 ( 8 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素 <input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書,複製,写真,イラスト,地図,図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり(    ) <input checked="" type="checkbox"/> なし

III. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

**講義実施に必要と考えられる以下の利用を許諾します。**

- (1)複製／配布(研修員、研修監理員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (2)翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (3)(1)(2)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂けますと幸いです。

**許諾いただけない内容に✓チェックをお付けください。**

(1) 研修員による帰国後の利用
<input type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

平成 31年 1月 22日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子

殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 藤田 徹夫

署名 藤田 徹夫

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の  
 当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 藤田 徹夫 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「 専門家との意見交換会(電力) 」
3. 日時 平成31年 1月25日 金曜日 9:00 ~ 14:00
4. 場所 東京国際センター(JICA)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Power Supply System for Shinkansen 」
2. 配布部数 0 部
3. 原稿提出 〆切 平成30年12月20日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 29 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input type="checkbox"/> a) すべて創作 <input type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input type="checkbox"/> なし	

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

承諾いただけない内容に□チェックをお付けください。

- (1) 研修監理員への複製／配布(ただし、紙媒体に限る)  
 (2) 複製／配布(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)  
 (3) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)  
 (4) (1)(2)(3)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。



平成 31年 1月 24日

一般財団法人日本国際協力センター  
常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
小武海 喜寛

署名 小武海喜寛

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 小武海 喜寛 所属: 日本コンサルタンツ株式会社
2. 講義名 「 専門家との意見交換会(土木) 」
3. 日時 平成31年 1月25日 金曜日 9:00 ~ 14:00
4. 場所 東京国際センター(JICA)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法	使用言語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	<input type="checkbox"/> 英語	<input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	------	---	-----------------------------	----------------------------------

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Shinkansen Slab Track in Japan 」
2. 配布部数 0 部
3. 原稿提出✓切 平成30年12月20日 ✓切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( ) 内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 18 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input checked="" type="checkbox"/> a) すべて創作 <input checked="" type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	

Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

承諾いただけない内容に□チェックをお付けください。

- (1) 研修監理員への複製／配布(ただし、紙媒体に限る)
- (2) 複製／配布(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (3) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (4) (1)(2)(3)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

【備考:利用許諾の条件】

1. 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
2. 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
3. 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
4. JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
5. JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
6. JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 31年 1月 21日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 國分 秀樹

署名 國分秀樹

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 國分 秀樹 所属: 日本コンサルタンツ株式会社  
 2. 講義名 「 専門家との意見交換会(車両) 」  
 3. 日時 平成31年 1月25日 金曜日 9:00 ~ 14:00  
 4. 場所 東京国際センター(JICA)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法 使用言語 日本語 英語 その他 ( )

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Outline of Shinkansen Rolling Stock 」  
 2. 配布部数 0 部  
 3. 原稿提出 〆切 平成30年12月20日 〆切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 32 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input type="checkbox"/> a) すべて創作 <input checked="" type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

承諾いただけない内容に□チェックをお付けください。

- (1) 研修監理員への複製／配布(ただし、紙媒体に限る)
- (2) 複製／配布(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)
- (3) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)
- (4) (1)(2)(3)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著作物)を利用している場合には、第三者(原著作物)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

平成 31年 1月 24日

一般財団法人日本国際協力センター  
 常務執行理事 岸本昌子 殿

住所 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号  
 新国際ビル4階

氏名 日本コンサルタンツ株式会社  
 加納 知宜

署名 加納 知宜

研修著作物(教材)利用許諾書

コース名称: インド鉄道省職員研修

標記の研修事業について、下記のとおり講義および教材の作成をおこない、同著作物の当該研修での利用を許諾します。また、当該研修以外での利用については、下記Ⅲ. 2. の通りとします。

記

I. 講義内容:

1. 講師 氏名: 加納 知宜 所属: 日本コンサルタンツ株式会社  
 2. 講義名 「 専門家との意見交換会(信通) 」  
 3. 日時 平成31年 1月25日 金曜日 9:00 ~ 14:00  
 4. 場所 東京国際センター(JICA)

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。

5. 講義方法 使用言語 日本語 英語 その他 ( )

II. 教材(テキスト・配布資料)内容:

1. 教材テーマ 「 Shinkansen S&T Equipment 」  
 2. 配布部数 0 部  
 3. 原稿提出×切 平成30年12月20日 ×切

※ 該当する内容に✓印をお付け下さい。また、( )内に具体的な名称や内容をご記入下さい。

4. 教材の種類・要素		
テキスト (パワーポイント含む)	(1) 新規・改訂の別	<input type="checkbox"/> 増刷 <input type="checkbox"/> 改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 新規
	(2) 使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語(要 翻訳) <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他( )
	(3) 翻訳後原稿チェック ※ご自身での校正	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	(4) 予定原稿枚数	( 44 ) 枚
	(5) 原稿の構成要素	<input type="checkbox"/> a) すべて創作 <input checked="" type="checkbox"/> b) 第三者の著作物の引用を含む <input type="checkbox"/> c) 第三者の著作物を利用(引用を超える) (文書, 複製, 写真, イラスト, 地図, 図版等) <input type="checkbox"/> 許諾済み <input type="checkbox"/> 許諾なし (許諾済みの場合は、第三者からの利用許諾書を添付のこと)
その他	<input type="checkbox"/> あり( ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	

## Ⅲ. 上記著作物に関する利用許諾

## 1. 当該研修(注※)での利用許諾内容

承諾いただけない内容に□チェックをお付けください。

- (1) 研修監理員への複製／配布(ただし、紙媒体に限る)  
 (2) 複製／配布(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA関係者、講義の聴講を認められた者、その他講義を実施するに際し、配布が必要と思われる者の人数分及び保管資料用)  
 (3) 翻訳(英語その他当該研修で必要とする言語)  
 (4) (1)(2)(3)に伴う、教材(著作物)又は二次的著作物(翻訳)における必要最低限と認められる変更(誤字脱字修正、年月日、研修コース名、データ形態)

※注:通常3年間継続しますが、同一目的・内容である限り、更新された研修案件においても有効と致します。

## 2. 当該研修以外での利用許諾内容

(「人材育成普及型」「課題解決促進型」研修の場合、以下の文を挿入する)本研修では、研修員が帰国後に研修成果を活用し、自国の組織において具体的なアクション(行動)を実施することを義務付けております。研修中の教材、資料等は大変参考になりますので、研修員による帰国後の利用について承諾頂きますと幸いです。

許諾いただけない内容に☑チェックをお付けください。

(1) 研修員による帰国後の利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(研修員の自国内関連機関)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 研修員が作成する報告書等への一部利用
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、研修員に配布
(2) 他の研修コースなど、JICA事業での利用
<input checked="" type="checkbox"/> a) 複製(翻訳物を含む)／配布(JICA事業関係者)
<input checked="" type="checkbox"/> b) 翻訳(現地語或いは他言語)
<input checked="" type="checkbox"/> c) 改変、要約、抜粋(含む翻訳・翻案)
<input checked="" type="checkbox"/> d) 電子データ化し、JICA事業関係者限定(研修員、研修業務受託機関関係者、JICA職員など)ウェブサイト等への掲載
(3) 一般への公開
<input checked="" type="checkbox"/> a) JICA図書館(開発研究所(仮称)内)での閲覧
<input checked="" type="checkbox"/> b) 外部団体・個人からの求めによる複製の配布
(4) 特記事項

(注)教材を複数作成される場合は、様式3-2を利用し、教材内容と利用許諾範囲を教材毎にご記入下さい。

## 【備考:利用許諾の条件】

- 作成された教材(著作物)の著作権は、講師(著作者)に帰属する。JICA費用負担にて翻訳した教材の著作権は、翻訳機関等(二次的著作物の著作者)に帰属する。
- 講師(著作者)は、JICAから個別の承諾を得ることなく、教材(著作物)を利用できる。
- 講師(著作者)は、教材(著作物)からJICAが作成する二次的著作物(翻訳)がある場合、非営利目的に限り、上記「2. 当該研修以外での利用許諾内容」と同等の範囲で利用を行うことができる。
- JICAは、上記「1. 当該研修での利用内容」、及び「2. 当該研修以外での利用許諾内容」のうち講師(著作者)及び第三者の著作物(原著物)を利用している場合には、第三者(原著作者)が認めた範囲において、教材(著作物)及びその二次的著作物を利用することができる。
- JICAは、教材の利用にあたって、講義録、講義要旨およびこれらの翻訳、講義用教材の編集・加工を行うときには、あらかじめ講師(著作者)に対して内容確認の機会を与えなければならない。
- JICAは、教材の利用にあたって、講師(著作者)が著作権者である旨の著作権表示をおこなう。また、編集著作物を作成する際は、JICAが編集者又は監修者である旨の編集著作権表示を加えて併記する。

# Report on Training Program for Ministry of Railways and National High Speed Rail Corporation Limited Officials (The 6th Batch)

## Members of Group 1 (Civil) – I

1. C1 - N D Wagh
2. C2 - M S Rathore
3. C4 - Ankit Gupta
4. C5 - Gaurav Shrivastav
5. C6 - Himang Jain
6. C7 - Anoop Shukla

# Our biggest learnings throughout the training program

## Track Structures for HSR

- Pre-fabricated floating track slab
- Train Protection switches & Intrusion detection systems
- Rail welding scheme of HSR

## Operation & Management of HSR Tracks

- TRAMS (dedicated maintenance hours)
- East I and 40 Mtr chord versine for inspecting track irregularities
- Rail track geometry car, REX, Rail Grinding/welding/carrying car for inspecting Rail irregularities



# Our biggest learnings throughout the training program

## Unified Operations & Control

- COSMOS ( computerized safety, Maintenance and Operation system of Shinakansen) – Intelligent transport control
- Introduction of Total Control System

## Operational Safety Features of Shinkansen

- Train interval control using ATC system
- Train operation control using CTC (PRC) system
- Disaster prevention control system

Thank you very much!

# Report on Training Program for Ministry of Railways and National High Speed Rail Corporation Limited Officials (The 6th Batch)

Date: 25<sup>th</sup> Jan'2019

Members of Group 2 (Civil)

C8- Dahake Gajanan Vishnupant

C9- Kaushik Rupesh

C10- Gupta Manoj Kumar

C11- Jain Rachit

C12- Singh Krishan

C13- Ravada Chandrasekar

C14- Saroj Rajneesh

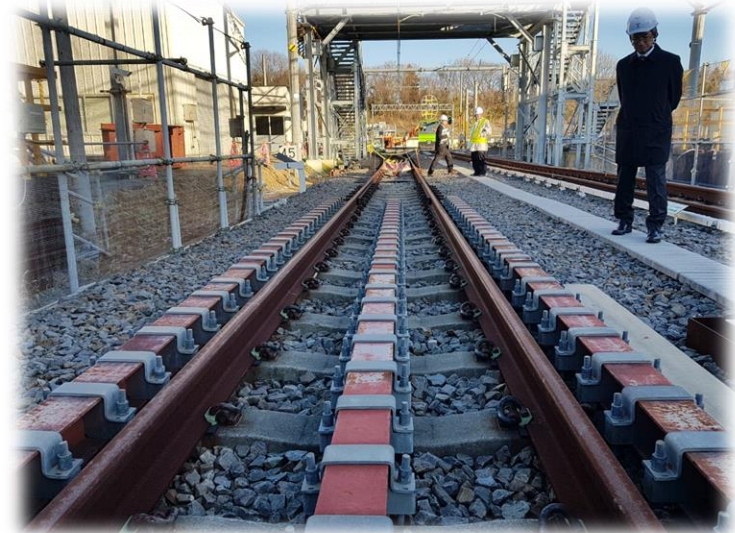
## Training Center of JR East

- Basic information about various **infrastructure facilities** were provided in practical training building, like track, signal, electrical.
- E5 Series **simulator** was also experienced.
- “Starting point for safety is sincerely learning from past accidents.” Accident Exhibition hall made on this policy was appreciable.



Labour Saving Track

## Training Center of Tekken Corporation



Stiffening Girder

- Various railway facilities were shown viz, **labour saving track or fall detection mat**, Obstacle detection device for LC's, **stiffening girder**, train approaching alarm detector etc.
- Various track component viz: kilometer mark, curve mark, switches, crossing, fitting, **slab track** (tie plate type) were also shown.

## Shinkansen: Construction

- Invention of **slab track** in 1965 was a major boon for track construction due to its **heavy weight and insulation property**.
- Kyushu Shinkansen track Construction site was visited in Nagasaki, and various steps to laying of track were learnt;
  - **Sub structure** is already complete.
  - 200 m **welded rails** are laid on temporary tracks and transportation of track slab is in progress.
  - For one stretch **track slabs** are laid on **concrete road bed** using slab laying vehicle and further work is in progress
  - Activities like **CA mortar injecting , rail laying and welding** (200 m to 1000 m) are also in progress.
  - **Rail surface adjustment** and third welding is to be carried out after that.
  - One gas pressure welding site was also visited to get an idea about process of welding and related works.



Gas Pressure Welding



Track laid on Slab



Confirmation Car

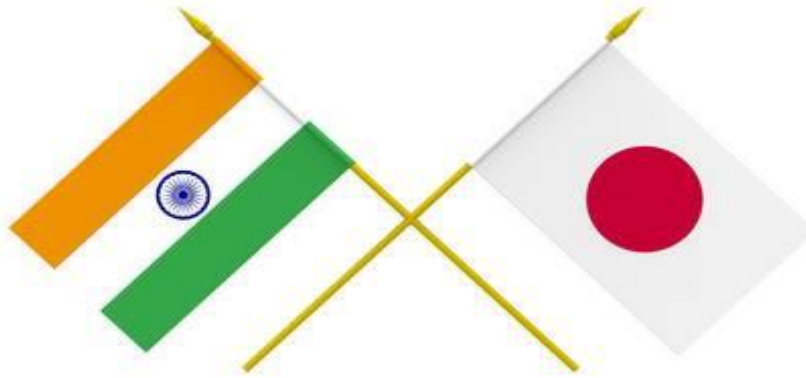


N-RIC

## Shinkansen: Maintenance

- **Sendai:** Track maintenance center of JR East was visited.
- Information about **facility departments** were provided namely track, Civil structure, Station and other buildings, machinery.
- Information was provided about the **organizational set up**. About 40 people of JR East are deployed for 400 km of track.
- It was informed that track maintenance is done in **cooperation with partner companies**.
- Track Machines like **East-I** & Rail Flaw Detection (**N-RIC**) is being used for monitoring of track.
- **TRAMS** is used for management of any displacement or defect.
- Defects are attended during non operating hour and **Confirmation Car** is run before commercial operation.

Thank you very much!



**KOKOROKARA NO MIJIKAI PUREZENTEESHON E YOOKOSO.**

**MINASAN, KON'NICHIWA.**

**LEARNING'S FROM  
KNOWLEDGE CO-CREATION PROGRAM  
JICA TOKYO**

**Electrical Team – Group-6 :**

**Anil Mote, Pankaj Saini, Kingsuk Sarkar, Ajay Singh,  
Deshraj Singh**



# 1. LEARNING'S FROM THE PROGRAMME

## 1. Evolution from Conventional Railway System to Shinkansen Railway System.

**Ex: Innovated through Perpetual growth & Sustainable Techno-Commercial Modeling.**

## 2. Planning and Implementation Strategies for the Discrete Modeling of a Particular Transportation Model & How to Lead in Technology Advancements.

**Ex: Shinkansen Technology**

## 3. Desirable Attributes of Railway Staff

- **Expectations of Japanese Railroaders**
- **Reforms**

## 4. Shinkansen's System Constructions:

- **Shinkansen Construction Scheme**
- **Safety Management of Railways.**
  - **Actual Locations, Actual Objects, Actual People.**
- **Education and Training to Staff**

# LEARNING'S FROM THE PROGRAMME

## 5. Transportation Hub for High Speed Railways:

- **Decision Making for Urban Development and City Planning.**

**Eg: Site visit Omiya and Tokyo Station**

## 6. Facility Maintenance Work

- **Division of Work**
- **Traditional Local vertical division of Labour changed to Horizontal division of Labour.**
- **Frame work for the Management**

## 7. Manufacturing of Signaling Equipments for Shinkansen.

**Eg: Site Visit to Kyosan Company Limited.**

# LEARNING'S FROM THE PROGRAMME

## 8. General Control Centre (GCC) :

- **Transport and Route Supervision, Operation Support, Passenger Support.**
- **Facility & Equipment Control, Electrical Power Control, S&T Control and System Control.**

## 9. Power Supply arrangements for Shinkansen :

**Shin-Omiya Sub station, voltage level 275kV/60kV**

**Eg: Design of Grid Sub-Station in Residential Area.**

## 10. Modeling of Training in Nippon Co. Limited(NDK).

**Ex: Training Methodologies for Electrical and Signal.**

## 11. Data collection by Inspection car East i.

**Ex. Electric Power, Signaling and track maintenance.**

# 2. Work Culture

- **Discipline**
- **Dedication**
- **Passion**
- **Hard work**
- **Punctuality**
- **Utmost Strive to improve**
- **Politeness**
- **Empathic**

**“DOMO ARIGATHO GOZAIMASU”**

**THANK YOU VERY MUCH FOR YOUR KIND ATTENTION**



# Report on Training Program for Ministry of Railways and National High Speed Rail Corporation Limited Officials (6<sup>th</sup> Batch)

Members of Group 2 Rolling Stock

1. SINGH Nidhi
2. TRIMURTHY Yarlanka
3. NAQVI Waheb

# Biggest learnings throughout the training program

- ❖ Focussed and diligent hard work pays. Japan within 5 years of starting construction on the first Shinkansen, began commercial operation and that too with all indigenized equipment
- ❖ 0 fatalities is the biggest strength that Japan has to offer to the world
- ❖ Huge infrastructure projects can be made financially viable and profitable by efficient organization structures and effective management
- ❖ High speed railways is as much about passenger comfort and environmental friendliness, as it is about speed
- ❖ Knowledge preserved is knowledge transferred
- ❖ Technological innovation and improvement never stops

Thank you very much!



**Report on Training Program for Ministry of  
Railways and National High Speed Rail  
Corporation Limited Officials (The 6th Batch)**

**Members of Group 2 (S&T)**

- 1. Jayanth Pandey (Dy. CPM/S&T)**
- 2. Shyamal Biswas (Dy. CPM/S&T)**
- 3. Pranavkumar Tandel (Manager/S&T)**

# Safety & Reliability of Shinkansen System

## Safety

LEARNING → “Zero” fatalities in last **54 Yrs** and On..

- Coordinated Manner- With Collective Team Efforts of **JR-East staff and Partner Companies**, both at **OCC** and **wayside** levels.
- Advanced Technologies-**DS ATC** , **EEWS**, Rain, Temperature, Snow monitoring system ,Fall Mat etc.
- Inspection & Analysis Tool-**East i** (Railways system **Doctor**)
- Adherence & Conformance of **Safety Procedures** for ex. **Mock Drills, Point & Call and Maintenance** etc.

# Safety & Reliability of Shinkansen System

## Reliability

LEARNING  Avg. Delay under **1 Min per Year** & High Frequency (**15 Trains Per Hour**)

- Highly Reliable design of the system and Its maintenance has led to achieve the Highest Punctuality targets. For Ex. **Substation design , Feeding section changeover design etc.**
- Fully integration of Shinkansen System with **COSMOS** has led to achieve the **headway of 15 Trains per Hour.**



Thank you very much!

# Final Presentation

Group 2 – Administration

Batch 6 – NHSRCL

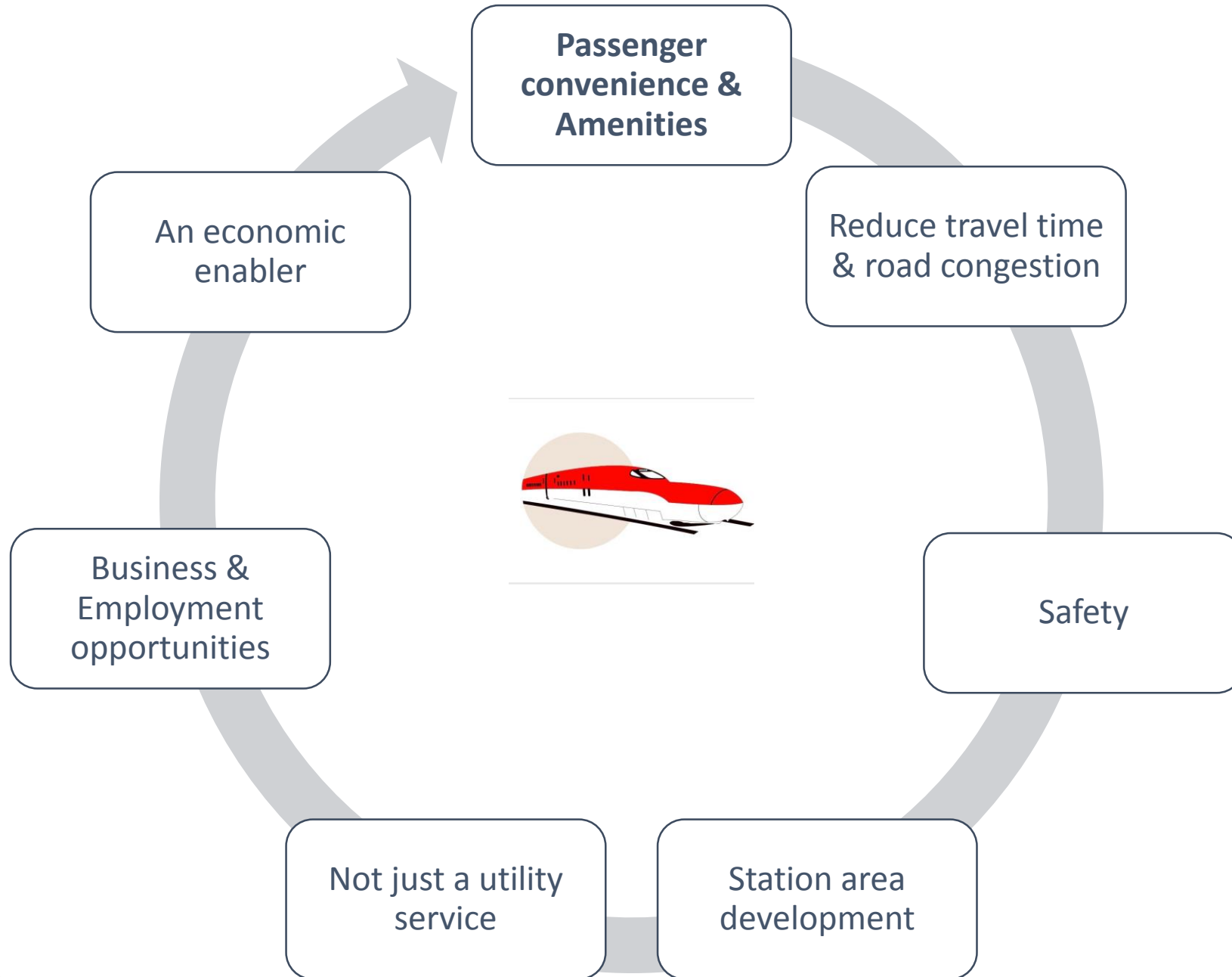
A-1 Anup Kumar Sinha

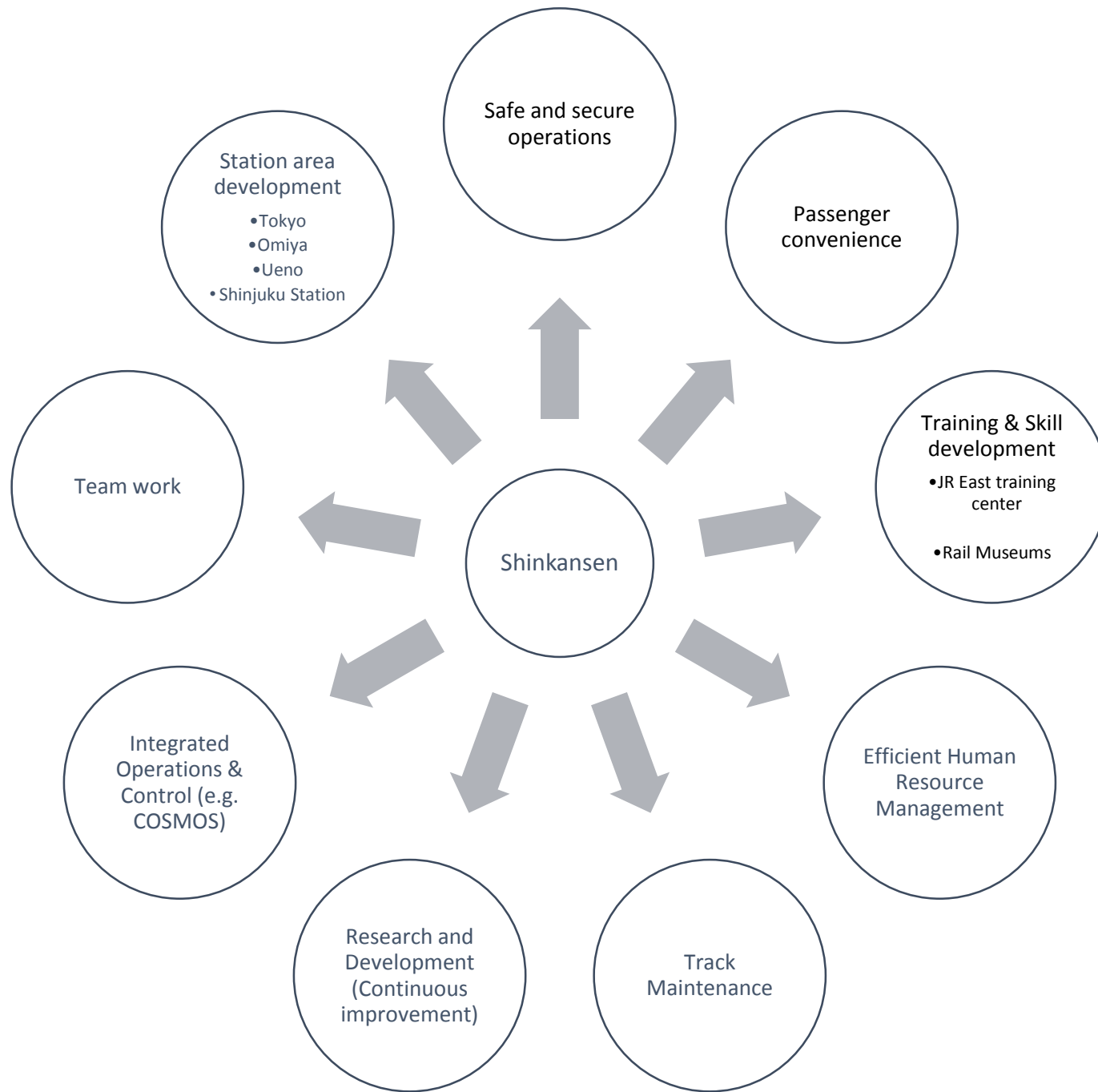
A-2 Sanjeev Nagaich

A-3 Ashutosh Srivastava

**A-4 Nishank Bhanu - Presenter**

A-5 Minketan Brundaban Panda





ありがとうございました

धन्यवाद

Thank you